



アニュアルレポート 2020

Chemistry at Work

信越化学工業株式会社

企業規範

遵法に徹して公正な企業活動を行い、
素材と技術による価値創造を通じて、暮らし
や社会と産業に貢献する。

経営資源

- 従業員数
22,783人
- 拠点数
国内生産拠点:
16社 27拠点
海外生産・販売拠点:
19カ国 93拠点
- 研究所
12 拠点
- 自己資本比率
82.1%
- 取引先
信頼関係と
パートナーシップ
- 企業文化
遵法精神・
公正な企業活動

『三位一体』 ～長期安定成長に向けた事業活動～



成果・創出価値

	財務成果	
	2009年度	2019年度
売上高	9,168億円	15,435億円
営業利益	1,172億円	4,060億円
税引後純利益	838億円	3,140億円
ROIC	7.0%	19.4%
ROE	6.0%	12.3%
1株当たり配当金	100円	220円

	特許件数	
	特許取得件数	特許保有件数
	1,892件	21,261件

	市場シェア	
	塩化ビニル樹脂／半導体シリコン／ 先端品フォトマスクブランク／フェロモン製剤	
	世界1位	
セルロース	国内1位、世界2位	
シリコーン	国内1位、世界4位	

	売上高に占める環境製品※比率	
	12.1%	

	海外売上高比率	
	73.1%	

2020年3月31日現在

※ 持続可能な開発目標(SDGs)の目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と目標13「気候変動に具体的な対策を」の達成につながる製品

目次

HIGHLIGHTS

2020年3月期(2019年度)

財務ハイライト	2
非財務ハイライト	3

マネジメントメッセージ

会長メッセージ	4
社長メッセージ	6
社会の持続可能な成長に向けて	9

事業概況

事業一覧	10
塩ビ・化成製品事業	11
半導体シリコン事業	14
シリコーン事業	16
電子・機能材料事業	18
機能性化学品事業	22
加工・商事・技術サービス事業	23
半導体製造工程と信越化学グループの製品	24
研究開発と品質マネジメントへの取り組み	25

サステナビリティの取り組み

環境・社会・ガバナンス(ESG)の強化	26
ESGの重要課題	28
ガバナンスの強化	37
社外役員の活動状況	40
取締役および監査役	41

財務情報

10年間の財務サマリー	42
連結貸借対照表	44
連結損益計算書	46
連結包括利益計算書	47
連結株主資本等変動計算書	48
連結キャッシュ・フロー計算書	49

会社データ

信越化学グループ主要拠点	50
投資家情報	52

より詳しい情報はこちらへ

IR情報

▶ <https://www.shinetsu.co.jp/jp/ir/>

サステナビリティ情報

▶ <https://www.shinetsu.co.jp/jp/csr/>

2020年3月期(2019年度)
財務ハイライト

	2017年度	2018年度	2019年度
売上高	14,414	15,940	15,435
営業利益	3,368	4,037	4,060
税金等調整前当期純利益	3,403	4,153	4,260
親会社株主に帰属する当期純利益	2,662	3,091	3,140
			円
1株当たり当期純利益	624	726	755
1株当たり年間配当金	140	200	220
			%
投下資本利益率(ROIC)※1	18.2	21.5	19.4
自己資本当期純利益率(ROE)	11.9	12.8	12.3
セグメント別営業利益		4,037億円	4,060億円
塩ビ・化成事業	932	1,065	921
半導体シリコン事業	929	1,319	1,432
シリコン事業	519	585	614
電子・機能材料事業	616	669	685
機能性化学品事業	257	266	277
加工・商事・技術サービス事業	114	132	148

※1：投下資本利益率(ROIC)＝税引後営業利益÷(純資産＋有利子負債－手持資金)

非財務ハイライト

		単位	2017年度	2018年度	2019年度
温室効果ガス※1	排出量	千CO ₂ -t	5,244	5,203	5,407
	生産量原単位指数 (2013年度=100)	%	92.6	91.6	94.0
水の使用量※2		百万m ³	2,222	2,258	2,333
従業員数※3	合計(うち日本以外)	人	20,155 (11,995)	21,735 (13,354)	22,783 (14,118)
休業災害度数率 (100万労働時間当たりの休業災害発生頻度)※4		%	0.13	0.16	0.32
離職率(自己都合のみ)※5		%	0.4	0.7	0.7
育児休業取得者(女性)／(男性)※6		人	69／77	100／90	91／71
女性管理職の人数※3		人	324	392	433
廃棄物発生量※7		千トン	108.6	116.2	113.7
廃棄物再資源化率※7		%	68.5	71.1	70.3

※1：集計対象範囲:連結と非連結の一部
※2：取水量と循環水量の合計。集計対象範囲:連結と非連結の一部
※3：集計対象範囲:連結
※4：暦年で集計。集計対象範囲:国内グループ
※5：集計対象範囲:信越化学単体
※6：育児休業期間は各国の法律にのっとっているため、国によって異なります。集計対象範囲:連結
※7：集計対象範囲:国内グループ(廃棄物は各国の基準が異なるため)

外部からの評価

2020

MSCI ESG Leaders
Indexes Constituent

2020

Sompo Sustainability Index

FTSE4Good

FTSE Blossom
Japan

Deloitte
Top 100
Global
Innovator
2020

2020

CONSTITUENT MSCIジャパン

ESGセレクト・リーダーズ指数

※ 信越化学工業株式会社のMSCIインデックスの組み入れ、およびMSCIロゴ、商標、サービスマーク、またはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社による信越化学工業株式会社のスポンサーシップ、推薦またはプロモーションを意味するものではありません。MSCIインデックスは、MSCIの独占的財産であり、その名称とロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。

会長メッセージ



当社グループが培ってきた力により さらなる企業価値の向上に 取り組んでまいります。

信越化学グループの製品をご愛顧いただいているお客さま、株主、お取引先、地域社会の皆さまからのご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

2019年度は世界経済が減速する厳しい環境でしたが、当社グループでは引き続き経営努力を重ねることで最高益を更新することができました。

当社の塩ビ事業を担うシンテックでは、2020年2月にエチレン工場が完成し、稼働を始めました。これによりシンテックは原料からの一貫生産をさらに強固にすることができました。今後も世界最大の塩ビ供給事業者として、お客さまの元に製品をより安定的に供給する基盤を拡充してまいります。

同社は、1974年10月にテキサス州フリーポートで操業を開始し、世界の塩ビ需要を着実に捉えて、同地での大型増設を繰り返しながら成長してまいりました。1997年にフリーポートでの一連の増設が完了したことで、新たな生産拠点が必要との決断に至りました。これは、生産拠点を分散することで、自然災害等のやむを得ない事由が発生した場合もお客さまへの供給責任を着実に果たしていくための決断でした。

第一段階として、2000年12月にルイジアナ州のアディスで塩ビの生産を開始しました。その後、シンテックでは一層の成長を目指して原料からの一貫生産計画に取り組みました。塩ビの原料からの一貫生産を行うためには広大な土地が必要です。米国内の複数の候補地を調査した結果、ルイジアナ州の

ブラックミンに、鉄道と船舶の両面で輸送に最適な工業用地を見だし、同地で2008年7月から、塩ビの主原料の一つであります塩素からの一貫生産を始めました。その後、ブラックミンでは2度の大増設を実施し、現在のシンテックの生産能力は295万トンに達しました。

そして今年2月、もう一つの塩ビの主原料でありますエチレン工場が生産を開始したことで、シンテックの原料からの一貫生産計画が完了しました。もちろんシンテックの歩みは、これで終わりではありません。現在、さらなる発展に向けて今年末の完成を目指して大増設を進めています。

現在、世界経済は新型コロナウイルス感染症の拡大により、深刻な影響を受けています。これは2008年の世界的な金融危機を超える危機とも言われています。当社の歴史を振り返りますと、過去に何度となく訪れた危機に際しても、経営力により克服し、さらなる成長に結び付けてきました。それを可能にしているのが、私たちが培ってきました次に述べます当社の強みです。

- 一つの製品、特定の顧客に過度に依存することなく、主力事業である塩ビ、半導体、シリコンをはじめ、各事業を強くすることに注力しています。
- 強固な財務基盤を築くことで、自己資金による機動的な設備投資や研究開発投資を行っています。
- 絶え間のない技術革新と生産性の向上により、不況に強い企業体質を築いています。
- 経営者と従業員が一体となり、持続的な成長に取り組んでいます。

今後も引き続き企業価値の向上に取り組んでまいります。皆さまにはなお一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役会長

金川千尋

社長メッセージ



**安全と品質を最優先に高稼働を続け、
過去最高水準の利益を達成いたしました。
今後もより堅実で強固な企業体質を育み、
お客さまにより良い価値を
提供してまいります。**

皆さまにこのメッセージを執筆している今この時、世界は現世代で最も深刻な健康への脅威の一つに直面しています。それにより世界経済や私たちの生活は多大な影響を被っています。新型コロナウイルスの世界的な蔓延により深刻な被害にあわれている皆さまと地域社会に、心よりお見舞い申し上げます。

私は、世界各地で活躍する2万3千人の当社の従業員を誇りに思っていることを、皆さまにお伝えしたいと思います。当社グループで働く全員が、この非常時の中で、職場の安全を保ちながら設備の稼働を継続し、お客さまへの供給を果たすために、素晴らしい仕事を積み重ねています。しっかりとした目的意識のもとでの精勤に、感謝の念が尽きません。グループで働く人たちの綿密さ、集中力、そしてチームワークは類まれなものといえるでしょう。申すまでもなく、当社は従業員の健康と安全を最優先しています。また、当社執行部の皆さんの優れた指導力にも心より感謝の意を表します。

2019年度は当社にとって再び輝かしい事業年度となりました。経営努力によって過去最高の利益の更新を継続することができました。現在の状況を見渡していただければ、2019年度の化学そして素材産業の中で、減益とならなかったことが稀有なこととご理解いただけたと思います。投下資本利益率(ROIC)と自己資本利益率(ROE)は、それぞれ19.4%と12.3%を維持しました。2010年3月期以降の累積成長額は税引後利益で2,302億円、年平均成長率は14.1%です。これらの実績とこれまでに積み上げてきた成果により、今まさに直面している極めて難しい局面におきましても、当社は強い力をもって対処することができます。2019年度には2,650億円の設備投資を行いました。2020年度も2,400億円の設備投資を行う予定で、生産能力の増強に加えて業界での優位性を高めることを目指します。これらの投資は、優先順位を考慮し統制を取りながら実施してまいります。当社はこれまでも目標を明確に定め、事業の基本を尊重し、さまざまな問題に対処してきました。今後も献身的に働く従業

員と共に、堅実で強固な企業体質を育み、お客さまにより良い価値を提供し、技術革新を図り、株主の皆さまへの還元を進めてまいります。

塩ビ・化成品事業では、はじめにシンテックのエチレン工場が操業を開始しましたことをご報告いたします。原料からの一貫生産体制の強化はシンテックの長期的な競争力を高めます。同時にシンテックは、新たな一貫生産工場を建設中で、計画どおりに進めています。さらに、それに続く第二期の増設計画の検討作業を開始しました。シリコン事業では、発表のとおり主要な生産拠点でのシリコンモノマーと最終製品の生産能力の増強を進めています。これらの設備投資により、世界中のお客さまに向けた供給能力と製品構成の強化を図ります。機能性化学品事業においては、医薬および工業用途のセルロース事業を拡大し、さらに、食品用途でも当社のセルロース事業の地位を高めてまいります。環境の面で持続可能な方法で、農産物の収率を高めることに寄与するフェロモン製品に、新たな製品を追加いたします。ポバール製品群の差別化にも引き続き取り組みます。

半導体デバイス産業は短期的な変動の影響を受けていますが、長期的には成長に向かうと確信しています。お客さまに高品質で最先端のシリコンウエハーを供給するために、実効性のある取り組みを進めてまいります。当社はフォトレジスト、フォトマスクブランクス、その他の製品など半導体デバイス産業向けの製品を供給しています。半導体デバイス産業が必要とする高品質のあらゆる素材を当社1社で提供できること

を目指し、今後も製品群を拡充してまいります。レア・アースマグネットの利用は引き続き増加し、その用途も拡大しているため、一貫生産体制の強化と供給能力の増強に取り組んでいます。当社の封止材製品群および基板製品群では、5Gに必要とされる新製品を上市しました。また、当社は光ファイバーケーブルの母材であるプリフォームを供給する唯一のマーチャント・サプライヤーとして、引き続き光ファイバー市場に商品を提供してまいります。同時に、あらゆるサイズの高純度合成石英基板の需要の増加にも速やかに対応いたします。

当社グループは全ての生産拠点において、安全と品質を最優先にしながら高稼働を続けています。各拠点では、前述のとおりグループ全体で2万3千人の意欲あふれる仲間が、当社の使命を果たすために日々取り組んでいます。働く仲間の実行力と熱意が当社に成功をもたらします。当社では、従業員が技能を高めるとともに、全ての人が敬意をもって尊重され、活躍できる機会が等しく与えられる企業風土を育んでいます。人材育成の面でも、マネージャーの指導によるOJTに加え各種の研修や能力開発プログラムなど、多様な機会を提供しています。

当社は研究開発への取り組みをさらに強化しています。2019年度は、売上高の3.1%に相当する485億円を研究開発に投入しました。およそ1,000品目の新製品を上市し、1,892件の特許を取得しました。売上高の30%以上は特許に裏打ちされた製品の販売です。当該年度には、石英クロス、熱硬化性超低誘電樹脂、

窒化ガリウム関連製品およびマイクロLED向け材料など新製品を上市しました。

当社の技術とエンジニアリングにおける専門技能は、ものづくりの支柱です。従業員による安全と品質に対する責任のある取り組みに加えて、当社が有する専門技能は、品質の高い製品を約束した期日に安定的に提供することを可能にします。当社グループでは、そこに働く全員がお客さまを中心にして仕事に取り組んでいますので、お客さまは当社と共に取り組む仕事のしやすさに気づかれるでしょう。当社はお客さまのニーズにお応えし、問題解決のお手伝いができまよう、開発力と目標を実現する技術の提供に引き続き注力してまいります。

当社の製品構成と研究開発の目指すところは、持続可能な開発目標（SDGs）が掲げる課題の解決につながります。当社の製品を提供することがSDGsの達成に貢献し、同時にSDGsによって当社の事業機会も拡大すると考えています。今後、人間社会が「持続的な発展とその質の向上」、そして「人間の活動がもたらす環境への負荷を大幅に減らしていくこと」を同時に追求していくために、効率性を極限まで高めることが必須と考えます。接続性、資源効率、生産性の向上、スマートインフラストラクチャー、健康増進は、当社が現

在取り組んでいる主要なテーマです。これらを進めるために、当社が生産する既存の製品を提供し、改良することに加えて、事業を通じて革新していくことに力を注いでいます。当社の素材があったからこそ、生活が改善、向上し、市場やお客さまの課題が解決できたと評価される—そのような価値のある製品を提供する—これが当社が日々取り組んでいる使命です。

当社は株主の皆さまへの還元特に留意しています。1株当たり220円の年間配当金を公表しました。これは、当社の歴史の中で最も高い配当金額です。

当社がこれまでお客さま、株主の皆さま、地域社会に実施してきましたことをこれからも継続していくには、会社が成長を続けていくことが必須です。そのために、品ぞろえを拡充し、事業領域を広げるべく、多岐にわたる新たな計画に取り組んでいます。当社は引き続きお客さまとお客さまのニーズにお応えすることに注力し、企業統治を適切に行うことで、社会への責任を果たしてまいります。

株主の皆さまからお寄せいただいている信頼とお客さまのパートナーシップに厚く御礼申し上げますとともに、信越化学グループに働く皆さんの業務への献身的な取り組みに心から感謝申し上げます。

代表取締役社長

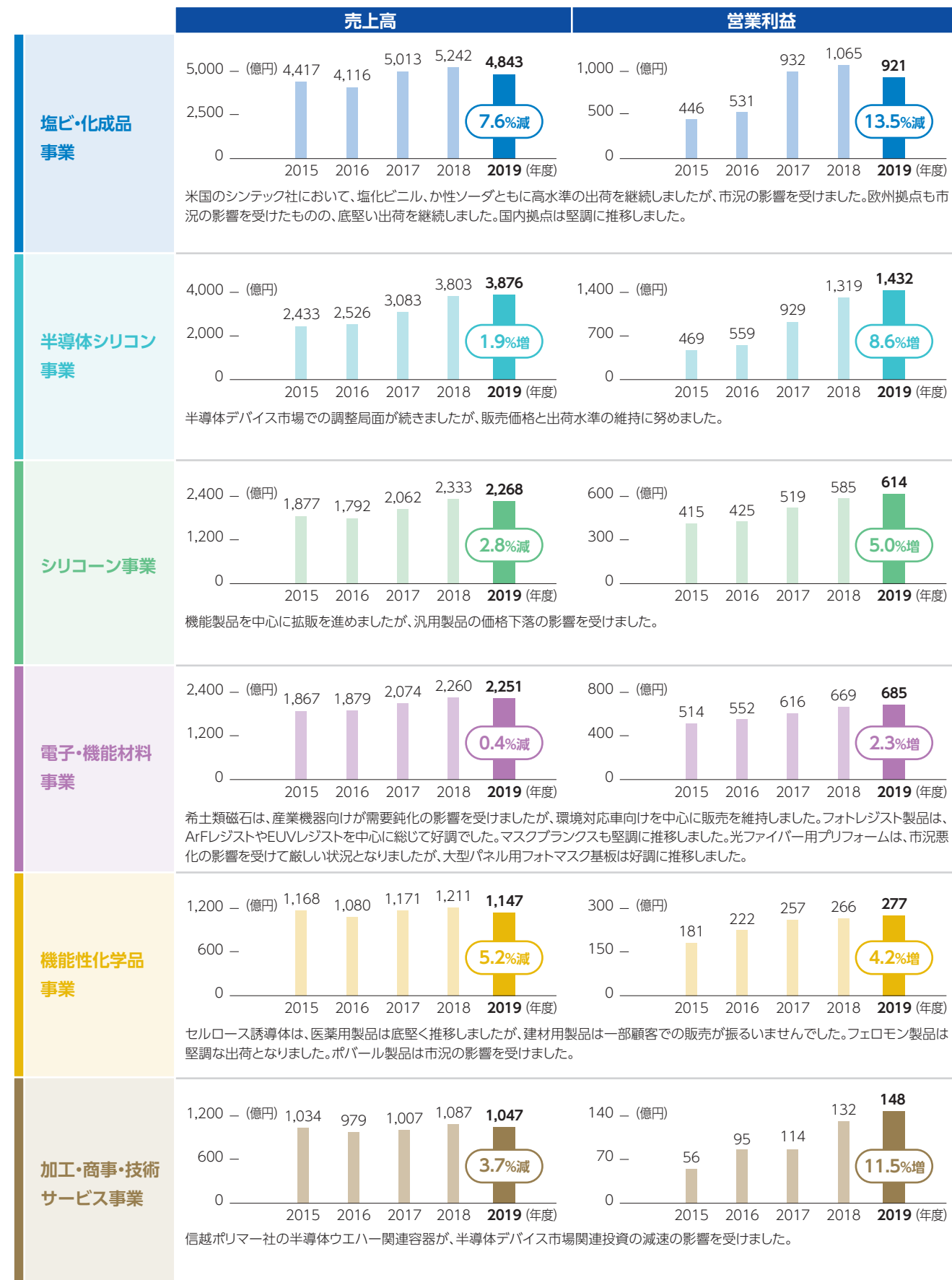
青藤 恭彦

社会の持続可能な成長に向けて

地球環境への負荷を抑えながら社会の持続的な発展と質の向上を目指し、健康で安全・安心な生活環境を築いていくには、効率性を極めていくことが欠かせません。信越化学グループでは、この課題に応じて、通信ネットワークへの「接続性」、資源やエネルギーの「資源効率」、「生産性の向上」、「スマートインフラ」、「健康増進」などの分野に製品を送り出すことで、SDGsの達成に貢献してまいります。



事業一覧



塩ビ・化成品事業



事業概要

塩化ビニル樹脂（塩ビ）は、生活用品から産業用資材に至るまで幅広く利用されている汎用樹脂で、当社グループは米国、欧州、日本の3拠点で合わせて年産415万トンの生産能力を有しています。米国塩ビ子会社のシンテック社は1974年に年産10万トンで操業を開始して以来増設を重ね、今日では年産295万トンの生産能力を持つ世界最大の塩ビメーカーです。原料の安定調達を目的としたエチレン工場の新設に加え、塩ビの原料からの一貫工場の建設により、さらなる生産能力の増強を進め、世界中のお客さまに製品を安定供給しています。



製品供給を通じた持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献

塩ビの原料の約6割は地球に豊富に存在する塩です。他の汎用樹脂に比べると石油資源への依存度が低く、環境への負荷が小さいことが特長です。塩ビの原料から製造工程に至るエネルギー消費量は、他の汎用樹脂の約6割です。耐久性が高くリサイクルも容易なことから、塩ビを使用した樹脂窓や上下水道用の塩ビ管など、建築、土木をはじめとした社会基盤素材として広く使われています。



半導体シリコン事業

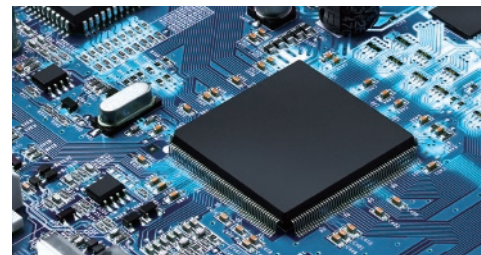
事業概要

当社グループは、半導体の基板に使われるシリコンウエハーの世界一のメーカーとして、高純度化や超平坦化の最先端を走り続けています。これまで300mmウエハーや高速および低消費電力を実現するSOI (Silicon on Insulator) ウエハーの量産化にもいち早く成功するなど、優れた製品を市場に提供しています。当社グループの高精度単結晶技術や高度加工技術に加え、先端ロジックや先端撮像素子用の高品質エピタキシャル成長技術、品質管理や評価解析の技術は、世界中のお客さまから高い評価をいただいています。IoT、AI、5G通信などの進展に伴い、さらに技術と品質に磨きをかけ、半導体デバイスの開発と生産を支える高度なシリコンウエハーの安定供給を続けていきます。



製品供給を通じた持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献

シリコンウエハーは、現代の高度情報化社会を支える基本素材として、電子機器の高性能化と小型軽量化はもとより省電力、省エネルギーにも貢献しています。特に自動車では環境対応や、安全性の向上、完全な自動運転に向けて不可欠な材料になっています。また、電力消費を最小限に抑えられるパワー半導体は、高電圧・高電流にも対応が可能で、主に電子機器への電力の安定供給に役立っています。低速から高速に至る正確なモータ駆動制御システムや、発電機から伝送線への効率的な電力伝達を可能とする省電力トランジスタにも、当社グループの製品が使われています。



最終製品に組み込まれた半導体デバイス

シリコンウエハー

デジタル機器・自動車の電装部品

スマートフォン、パソコンなどの電子機器、データセンターや自動車などに使われる半導体デバイスの基板材料として利用されています。

化合物半導体製品

LED部品

屋外ディスプレイ、信号機、車載ストップランプ、センサー光源など広い範囲で利用されています。

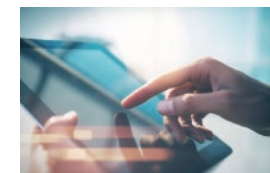


用途

通信・コンピューター



スマートフォン



タブレット



パソコン



データセンター

自動車



ハイブリッドカー



電気自動車



カーナビ



ETC

民生



テレビ



ゲーム



スマートウォッチ



デジタルカメラ



ドラム式洗濯機



省エネエアコン



炊飯器



電子レンジ

産業



産業用ロボット



新幹線



銀行ATM



自動販売機

その他

シリコン事業



事業概要

当社グループは、1953年に日本で初めてシリコンを事業化しました。それ以来、品質と技術力、そして市場ニーズへのきめ細やかな対応により、国内はもとより世界でシェアを伸ばしています。シリコンは、無機と有機の性質を兼ね備え、数多くの優れた特性を併せ持った高機能樹脂です。現在、保有する製品数は5,000品種を超え、電気・電子、自動車、建築、化粧品、ヘルスケア、食品など、幅広い分野に使われています。



製品供給を通じた持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献

シリコンは、地殻の表層を構成する元素のうち、酸素に次いで2番目に多く存在するケイ素 (Si) を主原料としています。石油資源への依存度も低く、環境への負荷が小さい材料といえます。また、電気自動車やエコタイヤ、LED照明、太陽光発電などの環境配慮型製品に使用され、持続可能な社会の実現に貢献しています。



TOPICS

1,100億円の大型設備投資により生産能力を増強

国内外の各拠点で1,100億円の大型設備投資を段階的に実施しています。今後も成長が見込まれる自動車、化粧品、ヘルスケアなどに使われる付加価値の高いシリコン製品の需要増に対応するとともに、中間原料であるシリコンモノマーの生産能力を増強しています。当社は、幅広い分野に使われるシリコン製品のグローバルでの供給体制をさらに強化しています。



シリコンの代表的な形状



シリコンの代表的な特性

耐熱性	接着性
耐寒性	消泡性
電気絶縁性	撥水性
離型性	耐候性

用途

化粧品

各種化粧品の使い心地や機能を高め、多様化する化粧品市場のニーズに応えています。



建物

ガラスまわりの防水シーリング材として幅広く使われています。



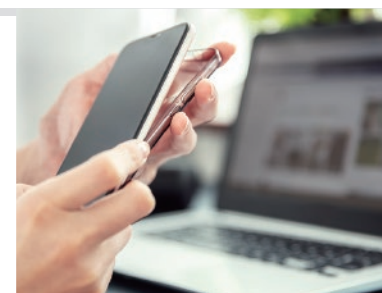
リチウムイオン電池

電気自動車などに搭載されるリチウムイオン電池の放熱材料に使われています。



プラスチック製品

樹脂の改質剤に用いられ、プラスチック製品の高機能化、高性能化に貢献しています。



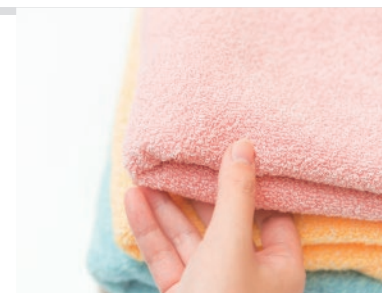
コンタクトレンズ

酸素透過性に優れているため、コンタクトレンズの素材として活用されています。



繊維処理剤

柔軟な風合いや撥水性などの機能を付与しています。



CPAP※装置

睡眠時無呼吸症候群の治療に使うCPAP装置のマスクに使われています。シリコンは肌に優しく、ソフトに密着します。



※Continuous Positive Airway Pressure (シーパップ: 持続陽圧呼吸療法)

船底塗料

海洋生物の付着防止による燃費向上と高い安全性により海の環境保全に貢献しています。



エコタイヤ

タイヤの改質剤として、転がり抵抗を低減することができ、燃費向上に役立ちます。



玩具

シリコンの安全性や透明性が生かされ、玩具の材料に使われています。



写真提供: (株)セガトイズ

電子・機能材料事業

事業概要

ハイブリッドカーや電気自動車、産業用機器、家電製品などに使用されるモータの小型化と軽量化に不可欠なレア・アースマグネットや、半導体の製造工程に使用されるフォトレジスト、フォトマスクブランクス、封止材、ペリクルなどを供給しています。さらに、光ファイバー用のプリフォーム、液晶などのフラットパネルディスプレイ用の大型フォトマスク基板に使用される高純度の合成石英なども供給し、高度情報化社会のニーズにも応えています。



製品供給を通じた持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献

レア・アースマグネットは従来のフェライト系磁石に比べ約10倍の磁力を有し、モータの小型化と軽量化に加え回生電力の増加も実現します。環境対応自動車や省エネエアコンなど、さまざまな製品の電力効率を高めながら、温室効果ガス排出量の削減に貢献しています。



角型、リング型、シリンダー型など各種レア・アースマグネット



TOPICS

ベトナムのレア・アースマグネットの製造工場を強化

ベトナムのシンエツ マグネティック マテリアルズ
ベトナム社は、2013年に原料の分離精製から操業を開始しました。その後BCP*を考慮し、日本以外で初めて溶解、成型、焼結までの素材工程を導入。環境対応自動車や省エネエアコンの需要拡大に対応し、素材工程の生産能力増強を進めています。さらには加工工程の導入による原料の精製から最終製品までの一貫生産体制の強化、安定供給体制の向上を図っています。

*Business Continuity Plan (事業継続計画)



シンエツ マグネティック マテリアルズ ベトナム社



主要製品と用途

レア・アースマグネット

自動車の駆動モータや発電機、エアコン用のコンプレッサーモータ、産業用ロボット、デジタル家電のハードディスクドライブの駆動装置などに使われ、省エネルギーに貢献しています。当社では原料となるレア・アースの分離精製から加工までを一貫して手がけています。さらに、磁石の性能はそのままに重希土の使用量を削減する粒界拡散合金法を独自に開発するなど、優れた特性や品質を持つレア・アースマグネットを安定供給しています。

産業用ロボット



省エネエアコン



ハードディスクドライブの駆動装置



プラグインハイブリッドカー (メルセデス・ベンツ S560e)

駆動モータにレア・アースマグネットが搭載され、省エネとCO₂削減に貢献しています。



半導体デバイス用封止材料

半導体デバイスの封止、環境対応自動車や省エネ家電向けパワーモジュールの絶縁、保護封止に高耐圧・高信頼性の液状、シート状、タブレット形状のエポキシ封止材料が使用され、製品の小型化、軽量化に貢献しています。



低誘電材料

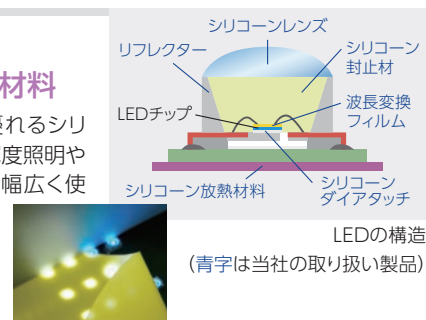
SLK樹脂

熱硬化性樹脂として最も低い誘電正接を持ち、5Gなどの高速通信用有機基板や半導体デバイスの封止に使用することで極めて低い伝送損失を実現します。



LED用 パッケージング材料

透明性や耐熱性に優れるシリコン系材料で、高輝度照明や自動車用LEDなどで幅広く使われています。



LEDの構造
(青字は当社の取り扱い製品)

光ファイバーコート材

断面直径が125μmと極めて細い光ファイバー。この細微な光ファイバーの表面の保護と強度向上のために使われています。



石英ガラスクロス

高周波帯域において理想的な誘電特性を持った材料です。高速通信用やアンテナ基板などの強化剤(プリプレグ形成材料)として、熱可塑から熱硬化性など幅広い樹脂基板に使用され、高周波・高速伝送分野で通信性能の向上に大きく貢献します。



半導体用高純度シラン

半導体絶縁膜やエピタキシャルウエハーなどに使われます。高度な精製技術により純度の高い製品を安定的に供給しています。

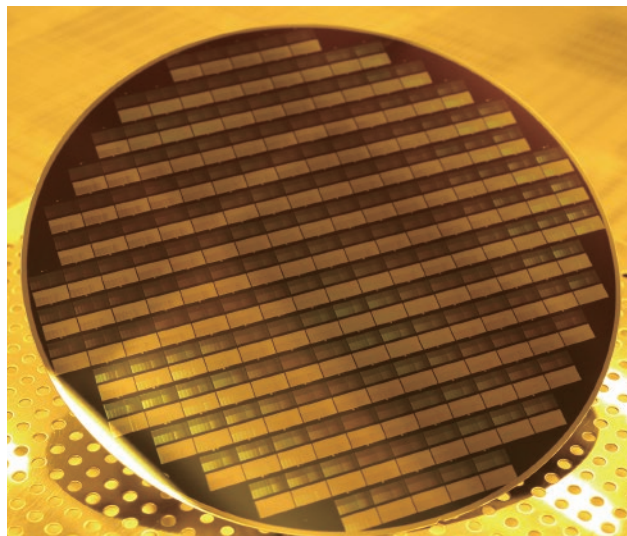


電子・機能材料事業

主要製品と用途

フォトレジスト

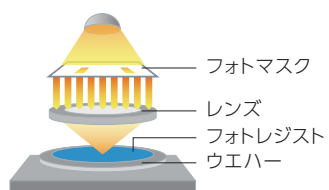
当社は素材メーカーとしての強みを生かし、原料のポリマー合成から調合までの一貫製造を行っています。半導体回路のパターン転写に使用される感光材料としてのエキシマレーザー (KrF、ArF) 用フォトレジストや薄膜磁気ヘッド、MEMS用などの厚膜i線フォトレジストを製品化しています。さらに先端の微細化プロセス用に多層材料製品のラインアップがあります。これらは、半導体デバイス製造のリソグラフィ工程に必要な材料として、半導体の高集積化、高速化、高機能化を支えています。当社は市場の伸びを着実に捉えるために、需要地の一つである台湾に新たな工場を建設しました。従来の直江津工場と併せて2つの生産拠点を持つことで、リスクの分散も実現し、事業基盤の強化を図ります。



フォトマスクブランクス

フォトマスクブランクスは、合成石英の基板上に遮光性の薄膜を形成したものです。半導体製造工程において、シリコンウエハーの上に回路を描画する際に、パターンの原版となるフォトマスクの材料として用いられます。

当社は、主要原材料の高性能化と高品質化を図り、最先端のデバイス製造に不可欠のシングルナノメーターに対応した多層膜構造や耐光性に優れたシリコンナイトライド透過膜構造など、今までにない最先端フォトマスクブランクスを量産技術を確認しました。また、ArF、KrF用のハーフトーンタイプの位相シフトフォトマスクブランクスもそろえ、デバイスメーカーからのニーズに応えています。



液状フッ素エラストマーSHIN-ETSU SIFEL®

シリコンの付加反応技術に応用し、加熱すると硬化してゴム弾性体になる液状フッ素エラストマーSHIN-ETSU SIFEL®の開発に世界で初めて成功しました。

SHIN-ETSU SIFEL®は、耐熱性、耐寒性、耐油性、耐溶剤性、耐薬品性などの優れた機能と加工性を兼ね備え、自動車、航空機、電子機器、光学用途など幅広い分野で利用されています。



フッ素系防汚コーティング剤・防汚添加剤

当社のフッ素系防汚コーティング剤は眼鏡レンズやスマートフォンのカバーガラス、保護フィルムなどに使われています。表面に形成されるナノレベルのフッ素の被膜が水や油をはじき、指紋などの汚れを拭き取りやすくします。また、優れた滑り性により、スマートフォンの操作性向上にも寄与しています。ハードコート剤に添加し、同様の機能を付与する防汚添加剤も製品群に加え、お客さまのニーズに応えています。



合成石英

光ファイバーの原料となる合成石英は、光の透過性に優れていることが特色です。一般の板ガラスでは光は約2mで減衰しますが、合成石英は約100km先まで届きます。当社グループでは、天然石英より純度の高い合成石英の量産化に世界で初めて成功しました。光ファイバーをはじめ、半導体の回路書き込みに使われるLSI用フォトマスク基板やステッパー用レンズ、液晶などのフラットパネルディスプレイ (FPD) 用の大型フォトマスク基板などに利用され、高度情報化社会の発展を支えています。



酸化物単結晶 (LT／リチウム・タンタレート)

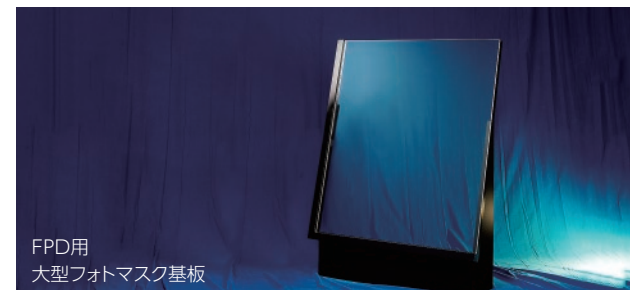
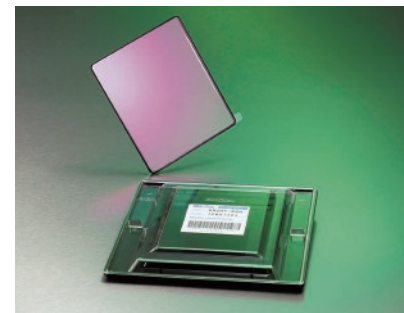
LTは、電波をふるいにかけ特定の周波数のみを取り出すSAW*デバイスに用いられ、移動体通信機器やテレビのチューナーなどに使われています。酸化物単結晶は、今日のスマートフォンの普及に貢献するなど、現代の情報化社会において大きな役割を果たしています。



* Surface Acoustic Wave (表面弾性波)

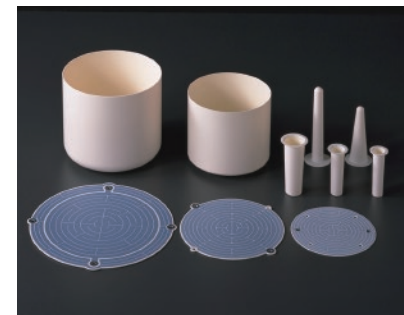
ペリクル

ArFやKrFエキシマレーザー光源に対応した高品質のペリクルを提供しています。優れた耐光性と透過率均一性を持ち、徹底した低アウトガス対策を施した当社のペリクルは、微細化の進む半導体デバイスの生産を支えています。また、液晶パネル製造用の超大型ペリクルの開発にも成功し、量産しています。



超高純度窒化ホウ素 (PBN／パイロリティック・ボロン・ナイトライド)

PBNは、耐薬品性や高温強度に優れた超高純度のセラミックスです。このPBNの初の国産化に成功したのも、信越化学です。PBNはその特性を生かし、化合物半導体や分子線エピタキシー用るつぼに加え、MOCVD装置や有機EL装置など、応用分野が拡大しています。



リチウムイオン電池用負極材

SiOなどケイ素系材料は、高容量で高出力の次世代リチウムイオン電池の負極材として期待されています。当社は独自の方法でSiO粒子に導電性を付与することに成功しました。



機能性化学品事業

事業概要

機能性化学品事業の主要製品は、天然の高分子セルロースから作られる自然に優しい素材「セルロース誘導体」です。その用途は多岐にわたり、医薬品や食品をはじめ、建築および土木、塗料、セラミックス、トイレタリーの分野で活躍。国内最大のシェアを占め、日本、欧州、米国に生産拠点を有する大手メーカーとして世界の需要に応えています。その他、農業害虫の防除に使われる合成性フェロモン、機能性樹脂のポパール、シリコーンや合成石英などの主原料となる金属ケイ素など、多彩な製品を提供しています。



製品供給を通じた持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献

工業用セルロース誘導体は、水中でのコンクリートの分離を低減できることから、水を汚さずにコンクリートを打ち込めます。これにより水質汚濁防止などの環境保護に貢献しています。合成性フェロモンは、安全性が高く環境に優しい農業害虫の防除剤であり、畑にまかれる殺虫剤や農薬の削減を通じて、食の安全性向上に役立っています。



TOPICS

セルロース誘導体の新工場が完成

2019年秋、信越化学直江津工場では、同工場の主力製品の一つであるセルロース誘導体（メトロース®）の新工場が完成しました。この工場では、技術改善や新規技術を導入し、より高品質なセルロース製品を生産します。これにより、医薬、食品向け製品をはじめ多様化する製品の品ぞろえに対応することができ、セルロース事業のさらなる成長を目指します。



完成したメトロース®の新工場

主要製品と用途

セルロース誘導体

体内で薬が溶ける場所をコントロールしたり、薬を徐々に溶かすなどの機能を付与できます。

地球温暖化防止に貢献する自動車の排ガス浄化装置の成型を助ける結合剤としても使われています。



合成性フェロモン

人工的に合成したフェロモンで害虫の雌雄の交信を乱して交尾を阻害します。



合成香料

青葉アルコールは、芳香剤や化粧品、食品などに幅広く利用されています。



金属ケイ素

シリコーン、半導体シリコン、合成石英などの主原料。オーストラリアのシムコアオペレーションズ社で生産しています。



ポパール

日本酢ビ・ポパール（株）が製造・販売。水溶性合成樹脂の特徴を生かし、接着剤、各種フィルム、繊維処理剤、紙加工剤のほか、化粧品添加剤、医薬品添加剤など、多種多様な用途に使用されています。



ソルバイン®

日信化学工業（株）が提供する接着性、溶解性に優れた変性樹脂で、塗料、インキ、接着剤などに使用されています。



加工・商事・技術サービス事業

事業概要

信越ポリマー社では、素材の加工技術を駆使し、操作性や機能性を高めた製品を開発し、提供しています。

信越エンジニアリング社は、主に当社グループの製造工場の設計、建設事業を手がけています。グループ外のお客さまからもその技術を高く評価されています。



製品供給を通じた持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献

信越ポリマー社のポリカーボネート製ナミタ（波板）は採光エクステリア材料として使われています。同製品は再生材料を50%以上使用しており、資源リサイクルに貢献しています。



TOPICS

信越ポリマーインド社の生産能力を増強

信越ポリマー社では、主力事業の一つである自動車関連入力デバイス製品の供給能力の強化に取り組んでいます。自動車の電装化、電動化の加速に伴う需要拡大に対応するもので、インドにて車載用キースイッチの生産設備を増設します。より強固な生産体制を構築することで、インド国内の需要の増加に加え欧州への輸出にも対応し、さらなる事業成長を目指します。

第3棟（写真右側）の増設が進む
信越ポリマーインド社

主要製品と用途

信越ポリマー

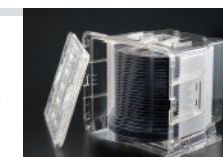
入力デバイス

自動車のダッシュボードのオーディオやエアコンなどの入力デバイスを提供しています。



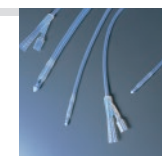
ウエハーケース

シリコンウエハーの輸送用ケースや、デバイスメーカーの工程内搬送ケースを提供しています。



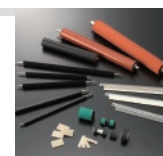
カテーテル

シリコーン加工技術で、複雑化するカテーテルを提供しています。



OA機器用各種ローラー

シリコーンゴムを素材に、導電、発泡、複合など独自の加工技術を駆使した現像ローラー、定着ローラーなどを提供しています。



shupua

透明度の非常に高いシリコーンゴム製のガラスです。



信越エンジニアリング

エンジニアリング

当社グループのプラント設計、建設や設備管理を手がけています。

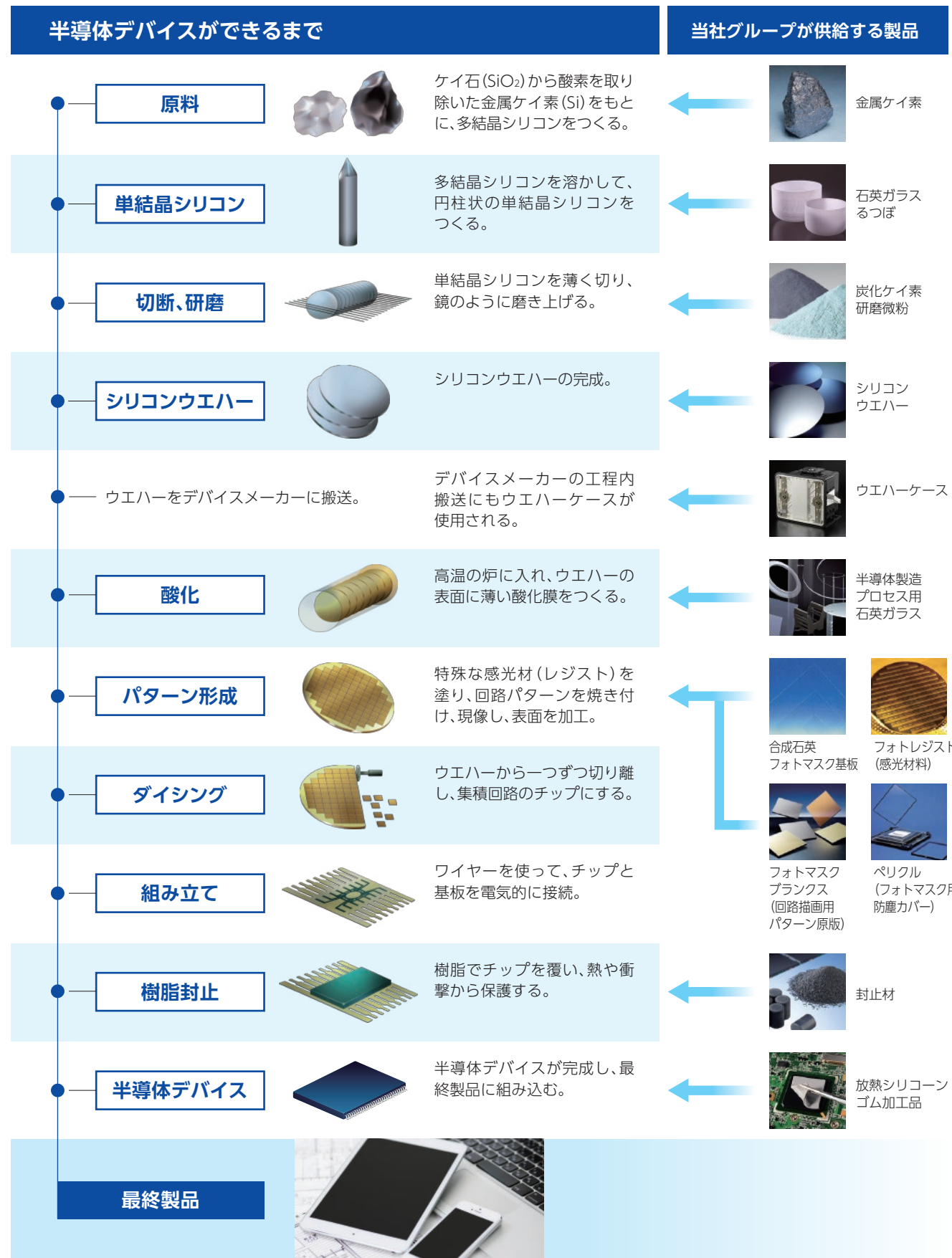


真空重ね合わせ装置

大型液晶パネルの生産を支える「真空重ね合わせ装置」を設計、製作しています。



半導体製造工程と信越化学グループの製品



研究開発と品質マネジメントへの取り組み

研究開発

環境負荷を抑えつつ、人間社会の持続的な発展とその質の向上を実現するには、効率を極めることが必須となります。そのためには、データの高速処理、自動運転、IoT、5G、AIなどの技術の進歩が不可欠であり、当社はこの目的に資する製品の開発にも積極的に取り組んでいます。

5G関連製品

活発化する需要を見据え、5G関連の新製品開発や商品ラインアップの拡充を図っています。

石英ガラスクロス

超高速通信を支える配線基板のコア材に最適な石英ガラスクロスを開発。極細の石英ガラスの糸が素材で積層基板の薄膜化が可能のほか、α線の発生が極めて少なく放射線によるデバイスの誤動作防止にも有効です。5G対応アンテナ等の繊維強化プラスチック部材としても期待されます。



熱硬化性の低誘電樹脂(SLKシリーズ)

低誘電特性を持つ高強度かつ低弾性の樹脂で、5Gの高周波数帯(10~80GHz)での誘電率や誘電正接は、熱硬化性樹脂として最低レベルを達成。FCCL(フレキシブル銅張積層板)や接着剤などへの使用にも適しています。

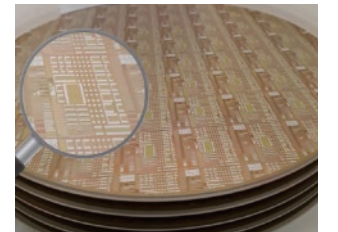


放熱シート

5Gで高まる放熱特性の実現のため、放熱材を組み合わせた粘着性シートや、熱で溶融、硬化し接着するシート等を新たに開発。高信頼性が要求されるパワー半導体や自動車分野へも展開を図ります。

窒化ガリウム(GaN)

GaNを用いた半導体は、電気自動車などのモビリティの進化や5Gなどで求められる、高デバイス特性と省エネルギーという相反する課題を解決できるデバイスとして、需要拡大が期待されています。大口径GaN関連製品の供給も図っていきます。



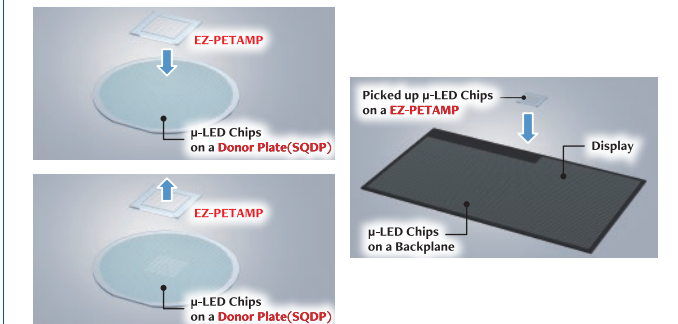
マイクロLEDディスプレイ製造用材料

マイクロLEDディスプレイは、微小なLED素子を各画素に配置した自発光ディスプレイで、その高いコントラストと明るさ、信頼性に加えて省エネルギーも期待できることから「究極のディスプレイ」と呼ばれています。当社はこのマイクロLEDディスプレイの量産を可能にする下記のプロセス材料を開発しました。

- ① 超平坦な基板上に粘着剤フリーでドライな接着層を形成したマイクロLED移送用スタンプ
- ② 基板を保持したまま洗浄工程や移送など種々プロセスを可能にする仮支持基板

これら製品に加えて、封止材やアンダーフィルなどのプロセス材料も提供しています。

■ マイクロLEDのマストランスファー工程



品質マネジメント

当社は、お客さまと約束した品質の製品を安定的に供給することが、素材メーカーとして最も重要なことであると考えています。私たちは、工業製品向けの原材料から、最先端製品向けの素材まで数多くの製品を取りそろえ、世界中のお客さまにお届けしています。それぞれの製品に対する品質要求にお応えするために、当社では最新の分析装置や評価装置を導入し、加えて独自の品質管理技術を開発し、応用しています。同時に、製造プロセスを見直し、統計的な手法によりバラツキの低減にも努めています。

今後もお客さまの最良のパートナーとして多様なニーズに迅速に対応し、常に安定した品質の製品の供給を目指していきます。

環境・社会・ガバナンス(ESG)の強化

信越化学グループは持続可能な成長に向けて、企業規範*の実践を通じて「社会が必要とする素材を提供すること」および「地球が直面する課題の解決に貢献すること」を推進。また、持続可能な成長を着実に推進するガバナンス体制の強化を図っています。

※ 企業規範(巻頭)ページ参照

ESGの推進

当社グループでは、企業規範を実践し、株主、投資家、顧客、取引先、地域社会、従業員というあらゆるステークホルダーの皆さまに貢献することを、企業の社会的責任と捉えています。ESGに関する課題への取り組みは、持続的な成長によってこの社会的責任を果たしていく上で不可欠なものであると認識しています。このため、ESGの基本方針および各種社内規程を定め、これに基づいて企業活動を進めています。

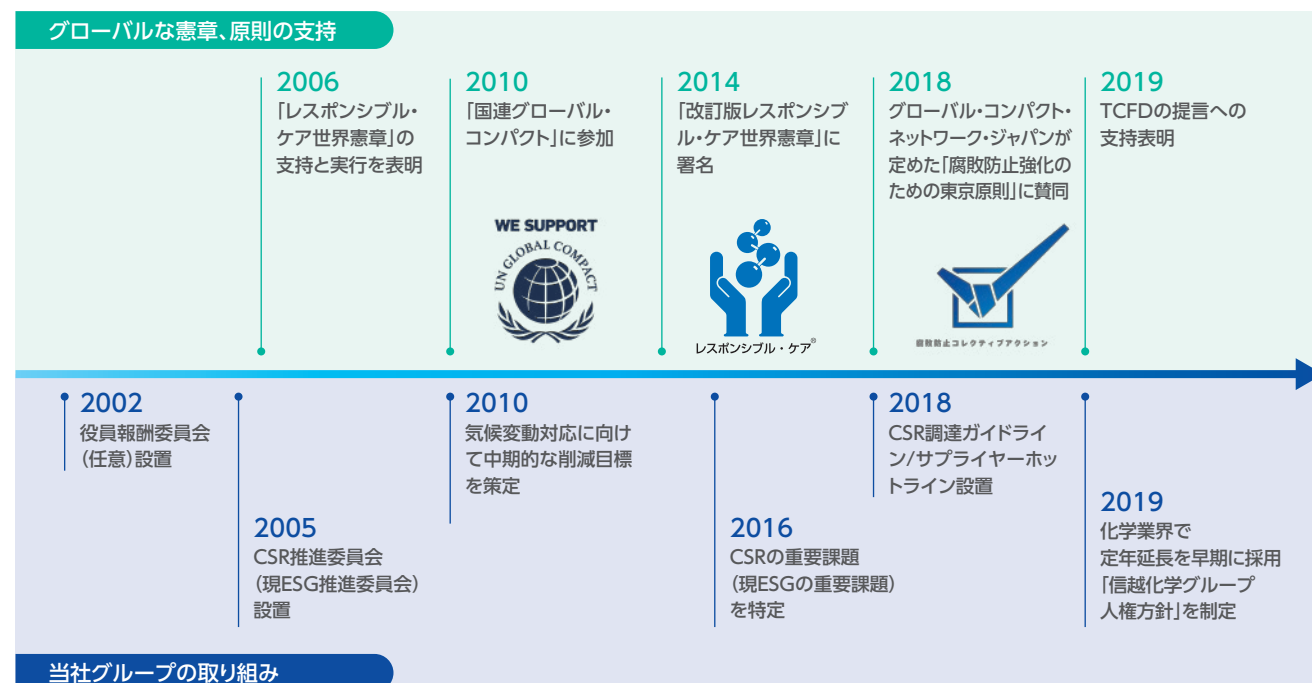
また、グループ全体でESGを推進していくため、当社社長をトップとするESG推進委員会を組織しています。同委員会には、当社取締役や部門長、グループ各社のESG担当者など約50名が参加し、あらゆる企業活動をESGの視点で検証し、取り組みの指針などを策定しています。

▶ ESGの基本方針

当社グループは、

1. 持続的な成長により企業価値を高め、多面的な社会貢献を行います。
2. 安全を常に最優先とする企業活動を行います。
3. 省エネルギー、省資源、環境負荷低減に絶えず取り組み、地球環境との調和を図ります。
4. 最先端の技術と製品を通じ、地球温暖化の防止と生物多様性の保全に取り組みます。
5. 人権の尊重と雇用における機会の均等を図り、働く人の自己実現を支援していきます。
6. 適時そして的確な情報開示を行います。
7. 倫理に基づいた健全で信頼される、透明性ある企業活動を行います。

▶ ESG活動強化の歩み



▶ 2019年度の取り組み

ESG推進委員会では、2019年度の当社グループが取り組むべき課題として下記の3点を取り上げ、ESG活動を強化しました。

3つの課題

1. 「持続可能な開発目標(SDGs)」と経営の統合
2. 人権デューデリジェンス
3. TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosure)*への対応

※ TCFD:G20の要請により、金融安定理事会(FSB)が2015年12月に設立した気候変動に関連する財務情報開示の特別チーム

1. SDGsと経営の統合

企業規範にのっとり当社グループが提供している多様な製品は、国連が掲げるSDGsの達成にも貢献しています。2019年度の経営目標では、従来の「地球環境に貢献する」を「SDGsに貢献する」に改め、既存事業への投資、新製品の開発と新規事業の検討における、SDGsとの親和性と適合性をより明確に打ち出しました。

2019年度の信越化学の投資案件の94%がSDGsに貢献する内容であり、省エネルギーやCO₂削減への投資も15億円に達し、温室効果ガス 7,649CO₂-トン削減の効果を上げています。

2. 人権デューデリジェンス

当社グループは、常に人権を尊重することを礎として事業に取り組んでいます。2019年5月には、その人権尊重の取り組みをとりまとめ、全社的な活動の推進と社外への発信をさらに強化するため「信越化学グループ人権方針」を制定しました。

また、世界人権宣言、ILO*国際労働基準、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」など国際的な行動規範を遵守し、「差別の禁止」「尊厳を傷つける行為の禁止」「プライバシーの保護」「労働基本権の尊重」「児童労働・強制労働の禁止」などの人権尊重に向けた活動を徹底しています。また、人権デューデリジェンスの一環として、当社グループのバリューチェーンにおける人権リスクを把握するために、2019年12月から人権リスク調査を実施しました。今後、洗い出したリスクを元に、当社グループにおける顕著な人権課題を特定、対処していきます。

※ ILO(International Labour Organization):国際労働機関

3. TCFDへの対応

2017年2月にTCFDより「企業は、中長期の複数の気候変動の予測と将来シナリオを元に、自社のリスクと機会を分析し、財務への影響度を開示すべき」との提言が行われました。当社グループは、2019年5月にこの提言の支持を表明し、経済産業省、金融庁、環境省などにより設立された「TCFDコンソーシアム」に参加しました。当社グループでは、同提言に沿って気候変動に関する情報開示の強化を図っていきます。

ESGの重要課題

当社グループは、2015年に定めたESGに関するグループの重要課題を2018年12月に見直しました。
その結果、「法令遵守、公正な企業活動」を含む重要課題全てを継承することにいたしました。
これらの重要課題に関しては優先順位を設けず、等しく取り組んでいます。

重要課題(マテリアリティ)の特定

当社グループでは、2005年にCSR推進委員会を設置。同委員会では、ISO26000の中核主題やステークホルダーの要請などを精査して当社グループにおける「CSRの重要課題」の特定に取り組みました。2015年には同委員会において重要課題案を取りまとめ、当社の全役員による業務執行の決定機関である常務委員会の決定を経て、正式に「重要課題」を特定しました(下図参照)。

CSR推進委員会を発展させたESG推進委員会では、これらの重要課題について改めて検討を行い、2018年12月にその全ての課題を「ESGの重要課題」として継承することとしました。

当社では、法令遵守および公正な企業活動を「全ての活動の礎」をはじめとした9つの重要課題を特に注力すべき取り組みとしています。

重要課題

当社グループでは、重要課題への取り組みを通じて、既存事業の強化や新規事業の創出を進め、SDGsに貢献しています。

E (Environment:環境) S (Social:社会)



働く人の安全の確保と健康の促進



省エネルギー、省資源、環境負荷の低減



製品の品質の向上、製品の安全性管理



CSR調達の推進、原料調達の多様化

全ての活動の礎
『法令遵守、
公正な企業活動』



人間尊重、人材育成、多様性の促進



知的財産の尊重と保護



社会貢献活動



適時、的確な情報開示、
ステークホルダーとの対話

重要課題のリスクと機会

重要課題		リスクと機会 (代表例)		課題に対する取り組み
全ての活動の礎 法令遵守、公正な企業活動		リスク 法令違反や不正の発生、社会からの信頼の喪失による企業価値の毀損 など		・研修などを通じたコンプライアンス意識の向上 ・贈収賄防止策の徹底 など
		機会 企業価値の礎の形成、リスクの排除、顧客からの信頼醸成と商機の拡大、優秀な人材の採用と定着 など		
E	省エネルギー、省資源、環境負荷の低減	リスク 温室効果ガスに関する規制の強化、原料の価格上昇や調達困難 など		・環境負荷低減の促進、気候変動への対応 ・水資源の保全 ・廃棄物削減 など
		機会 環境負荷低減と生産性向上による競争力強化や環境に貢献する製品の需要の拡大 など		
S	働く人の安全の確保と健康の促進	リスク 事故、環境問題が地域社会と従業員に与える影響や自然災害による設備の損害、感染症の流行に伴う操業への影響 など		・安全教育の実施 ・環境保安監査の実施 ・職場環境の改善 など
		機会 事故の未然防止と新しいプロセス開発による安定生産と生産性向上 など		
	製品の品質の向上、製品の安全性管理	リスク 製品の品質・安全性の問題による信頼喪失 など		・品質管理 ・品質監査、支援 ・製品の安全性管理 など
		機会 約束した品質の製品を期日どおりに納入し続けることで醸成される顧客からの信頼 など		
	CSR調達の推進、原料調達の多様化	リスク 原材料の調達困難による製造停止や出荷への影響 など		・「信越グループCSR調達ガイドライン」の改訂 ・下請法の遵守 ・紛争鉱物排除の取り組み など
		機会 調達先の多様化による最適価格でかつ安定した原材料等の調達や、CSR調達の徹底による顧客と社会からの信用の獲得 など		
	人間尊重、人材育成、多様性の推進	リスク 自社の事業活動やサプライチェーンにおける人権侵害の発生 など		・従業員の人権意識の醸成 ・多様性の促進 ・ワークライフバランス制度の充実 ・人権デューデリジェンスの実施 など
		機会 人権尊重を基本とする事業活動による、優秀な人材の採用と安定雇用 など		
	知的財産の尊重と保護	リスク 知的財産の侵害による製品販売の停滞 など		・知的財産、情報資産の適切な管理 ・サイバーセキュリティの強化 など
		機会 知的財産の保護と活用による独自開発の促進 など		
	社会貢献活動	リスク 企業活動の内容が社会のニーズと合致しないことによる信頼の喪失 など		・募金活動 ・地域貢献活動 など
		機会 事業の安定による雇用促進と納税、地域社会との信頼関係の醸成 など		
	適時、的確な情報開示、ステークホルダーとの対話	リスク 情報の非開示や不十分な開示による企業価値の毀損、ステークホルダーからの信用の喪失 など		・適時、的確な会社情報の開示 ・ステークホルダーとの対話の推進 など
		機会 適正な市場評価の形成、企業価値向上、ステークホルダーと社会からの信頼の獲得 など		

28 信越化学工業株式会社

アニュアルレポート2020 29

それぞれの取り組みの詳しい情報は、当社ホームページのサステナビリティサイトをご覧ください。

WEB https://www.shinetsu.co.jp/jp/csr/csr_issue.html

全ての活動の礎：法令遵守、公正な企業活動

当社グループは、多岐にわたる企業活動の全ての礎として、ESGの重要課題の特定にあたり、「法令遵守」と「公正な企業活動」を明記しました。

当社グループでは、企業規範とともに毎期の経営目標で「法令遵守」を掲げ、全ての役員および従業員の遵法意識を喚起しています。さらに、企業活動に関連する法令の制定や改正が行われた場合には、法務部門が中心となって社内への通達、周知徹底を図っています。また、重要な法令への理解を促すため、社内報に解説記事を掲載するなど啓発に努めています。

当社の全ての役員および従業員は、会社に「コンプライアンス誓約書」を提出しています。万が一、法令違反等の不適切な行動があった場合は、社内規程に従い相応の処分が科されます。また、「コンプライアンス相談室」を設置し、役員および従業員が法令、社会規範、贈収賄防止規程を含む会社の諸規程等への違反行為を発見した場合やハラスメント行為を受けた場合に、相談や通報ができる仕組みを整えています。

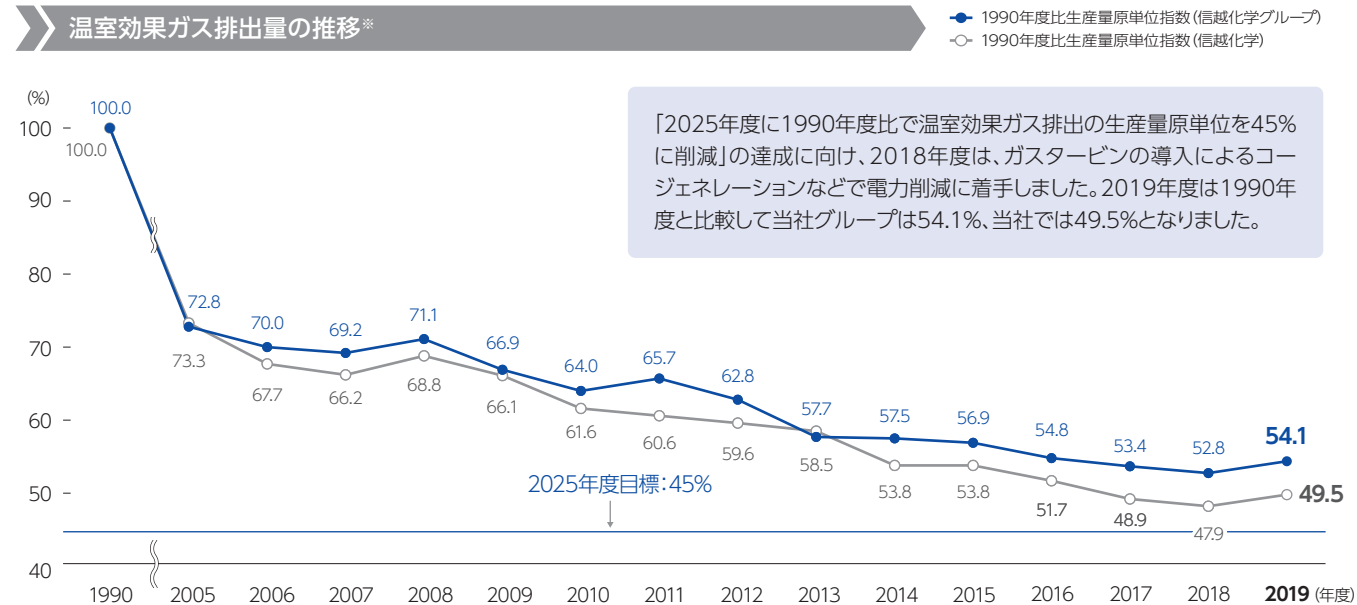
E Environment : 環境

重要課題：省エネルギー、省資源、環境負荷の低減

当社グループでは、製品の製造時だけではなく使用から廃棄に至る全ての過程で、地球環境への負荷を減らすことが重要であると認識しています。このため、生産過程などで地球環境への負荷の削減を徹底するだけでなく、製品の使用が環境負荷の低減につながる製品の開発に努めています。

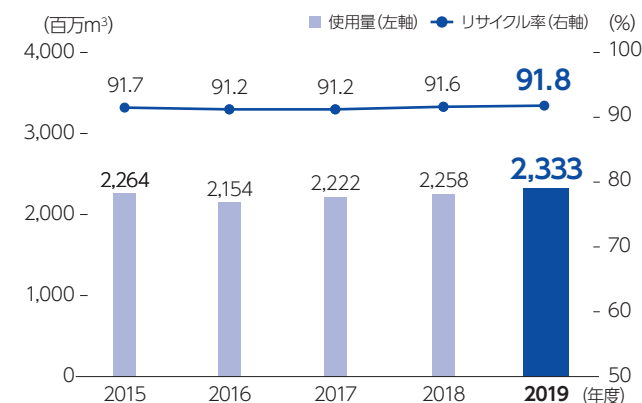
また、地球規模で課題となっている「海洋プラスチックごみ」の解決は、化学メーカーとしての責務の一つと捉えています。このため、業界団体が設立した海洋プラスチック問題対応協議会にも参画するなど、課題解決に取り組んでいます。

温室効果ガス排出量の推移*



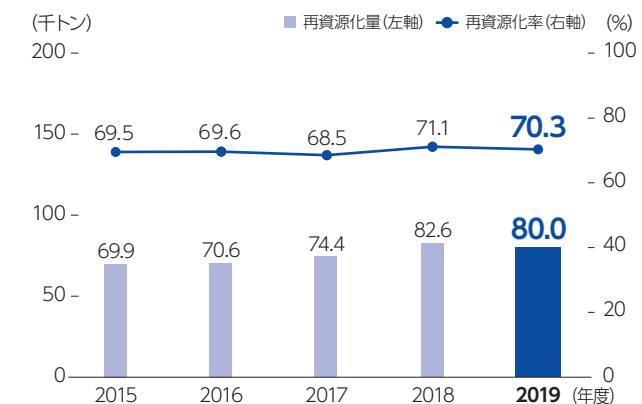
※ 1990年度を100とした生産量原単位指数の推移

水の使用量*の推移



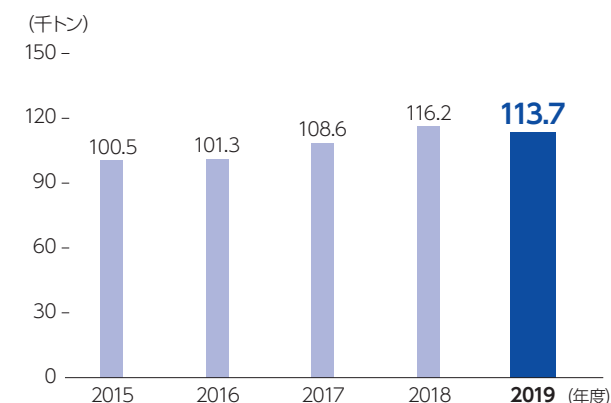
※ 取水量と循環水量の合計
※ 水の使用量は、連結と非連結の一部の集計です。

廃棄物再資源化の推移



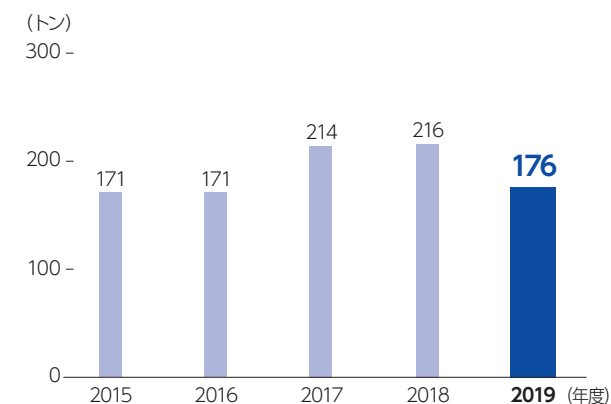
※ 廃棄物は各国の基準が異なるため、国内グループ会社の集計です。

廃棄物発生量の推移



※ 廃棄物は各国の基準が異なるため、国内グループ会社の集計です。

PRTR制度指定物質 総排出量の推移

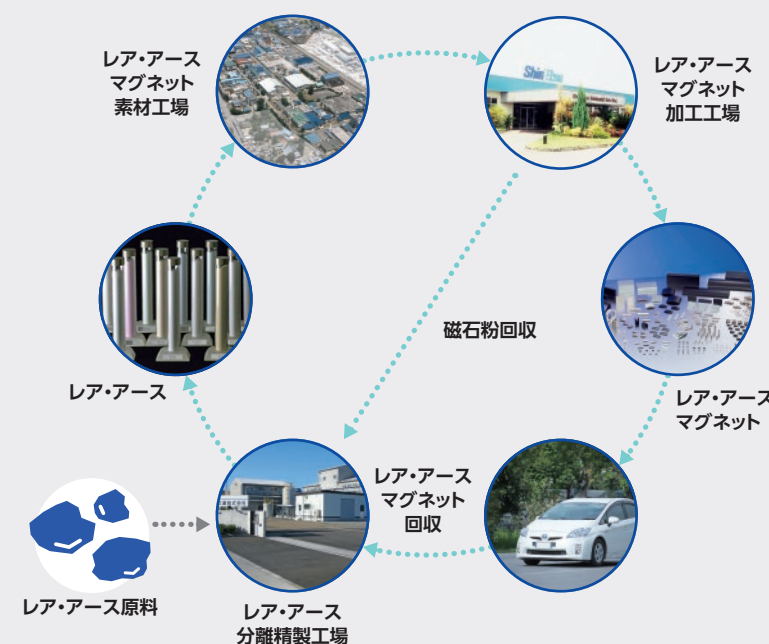


※ 化管法におけるPRTR制度に基づいた国内グループ会社の集計です。

資源循環に向けた レア・アースマグネットの リサイクル

当社グループでは、さまざまなレア・アースを取り出す「分離精製技術」を有しています。この技術を発展させ、加工工程で出る磁石粉のリサイクルに加え、2013年より、省電力エアコンやハイブリッド車に使用されているレア・アースマグネットのリサイクルにも取り組んでいます。この取り組みにより、レア・アースという貴重な資源の安定確保とともに、廃棄物の削減や資源の再利用による環境保全に貢献しています。

レア・アースマグネットのリサイクルの流れ



▶ 気候変動への対応

当社グループは、気候変動への対応の一環として、事業活動を通じて温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

戦略

当社グループは、環境負荷を抑えながら、社会と生活の発展を目指します。そのために、当社の製品と技術により効率を極めていくことに貢献します。具体的な戦略は以下のとおりです。

- 1) 徹底した生産効率化により、温室効果ガス排出量の生産量原単位での削減。
- 2) 環境貢献製品の開発、製造、供給。顧客や社会の効率化に貢献。
- 3) 再生可能エネルギーの導入促進。
- 4) 物流の合理化の促進。

気候変動に係るリスク管理と事業機会の把握

当社グループでは、事業活動を推進する上で考慮すべき包括的リスクをリスクマネジメント委員会が把握し、リスク管理規程で「具体的なリスクの特定」「リスク管理体制」「発生したリスクへの対応」を定めています。

気候変動を含めたリスク管理で重要な事項については、リスクマネジメント委員会が取締役会や常務委員会、監査役会に報告しています。

■ 気候変動が当社事業活動に与えるリスクと緩和策

要因	リスク	緩和策
1. 炭素税や排出権取引制度の導入	●生産拠点のあるEUで導入されている制度の日本や米国各州への導入	●生産効率の向上や新しい生産技術の実用化による省エネルギー、温室効果ガスの排出削減
2. 降水の量や地域の変化	●想定以上の洪水や暴風雨の発生による生産設備の故障の復旧費用や、生産活動停止に伴う機会損失費用の発生 ●自然由来の原材料や特定産地からの原材料の調達難	●生産拠点や原材料調達先の複数化 ●冠水リスクが低い場所への重要な設備の設置、防水壁の設置などの防水対策の強化 ●損害保険への加入 ●取水量の削減や水のリサイクル利用の徹底
3. 評判の低下	●事業拡大に伴う温室効果ガス排出量絶対量の増大への懸念 ●当社グループ製品の温室効果ガスの削減への貢献の周知不足	●取り組みの多面的、積極的な開示 ●投資家との気候変動について積極的な対話

■ 気候変動が当社事業活動に与える機会

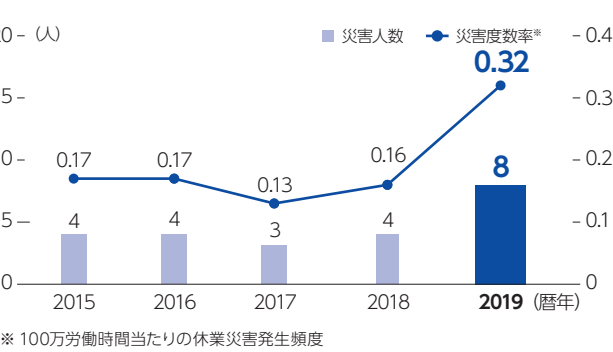
要因	機会	該当する製品
1. 規制強化による機会	●省エネルギー化、温室効果ガス排出量の削減に貢献する当社製品への需要増	半導体シリコン、 レア・アースマグネット、 シリコーン、 塩ビ など
2. 気温の変化による機会	●省エネルギー製品に採用される当社製品への需要増	
3. 評判の向上	●省エネルギー製品への評価の高まりにより、省エネルギー製品に採用される当社既存製品の販売が増加、または新規製品の拡販機会が拡大 ●省エネルギー貢献製品の評価に伴う企業価値向上の可能性	

S ▶ Social : 社会

▶ 重要課題:働く人の安全の確保と健康の促進

当社グループでは、「重大な事故は絶対に発生させない」「休業災害ゼロ」を目標に、リスクアセスメントを通じて負傷または疾病につながるリスクを徹底的に洗い出し、リスクを排除し低減することで、安全で快適な職場づくりに取り組んでいます。

▶ 休業災害人数と度数率の推移(国内グループ)



▶ 安全教育受講者数

対象範囲	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
信越化学	7,531	7,970	9,751	11,774	19,411
連結	—	22,166	24,829	28,013	39,328

※ 連結データについては、2016年度より集計を開始しました。

未然事故防止への取り組み

当社グループでは、毎年春と秋の2回、各製造事業所で環境保安監査を実施しています。2019年度は、重大事故災害防止を重点課題として、「非正常作業の安全対策」、「重大事故災害の想定と被害最小化の対策」の活動内容について監査を実施し、災害の未然防止とともに安定操業につなげています。

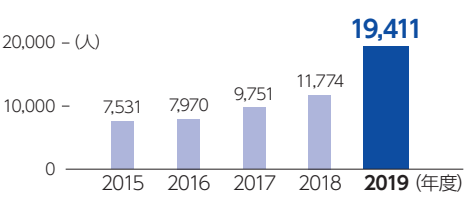
また、各事業所のボトムアップ活動として、長年「ヒヤリハット*1・気がかり提案」活動を続けており、2019年度は信越化学4工場において、約7千件の職場で気づいた身近なヒヤリ事象の提案*2がありました。この活動は、最も多くの安全改善に結び付けることができています。

※1 作業者が職場や身の回りで体験したヒヤリあるいはハッとした事例。
※2 提案事例の一部は、ホームページに掲載しており、定期的に更新しています。

▶ 重要課題:製品の品質の向上、製品の安全性管理

高付加価値製品はもとより、汎用製品においても優れた品質は非価格競争力となり、高い優位性につながります。また、製品を安定供給していくためには、営業、研究、製造、品質保証、そして出荷部門がそれぞれの役割を果たしていくことが必須です。さらに、製品の品質とは特性だけでなく環境や健康に対する安全性も大切な要素と認識しており、当社グループは品質問題ゼロに取り組んでいます。

▶ 製品安全性に関する研修の受講者数



品質管理の強化

品質と顧客サービスの向上を目的とした品質監査を2000年から毎年実施しています。2019年度は「工程検査、製品検査データの取り扱い」と「測定のばらつき」をテーマに、品質管理における問題点の抽出、再発防止対策、品質管理体制の改善に取り組みました。さらに、品質水準の向上のために、シックスシグマ活動*を全社的に展開しています。

※1980年代にモトローラ社(米国)で開発された品質改善手法。製造プロセスにおけるばらつきを抑えることにより、品質不良の発生を抑制し、品質改善を図ろうとする活動。

▶重要課題:CSR調達推進、原材料調達の多様化

世界各地に広がるサプライチェーンから適切な原材料調達を行うことは、世界的な課題となっています。当社グループでは「調達基本方針」を策定し、これに基づき人権や環境などに配慮した公正な資材調達活動を進めています。また、お取引先さまに「調達基本方針」を十分にご理解いただくために「CSR調達ガイドライン」を設けてホームページで公開するとともに、適宜、説明会を開催しています。

さらに2018年1月からサプライヤーホットラインを設置して、当社グループとの取引の透明性と公平性の確保に努めています。



紛争鉱物※排除の取り組み

当社グループは調達基本方針において、全ての調達品から紛争鉱物の排除を宣言しています。お取引先さまにその方針の遵守をお願いするとともに、該当する鉱物については定期的に精錬所まで遡った調査を行っています。

※ 紛争鉱物:コンゴ民主共和国およびその周辺国の紛争地域における、武装勢力の資金源となっている鉱物で、タンタル、スズ、金、タングステンやそれらの派生物を指します。

▶重要課題:人間尊重、人材育成、多様性の推進

当社グループは、信越化学の機関決定を経て2019年5月に「信越化学グループ人権方針」を制定し、同年12月から国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に沿った人権リスクの調査を行いました。今後はこの調査結果を元に人権課題を特定し対処していきます。

従業員の一人一人が健康で自己実現やキャリア形成を可能にする、働きやすい職場づくり、人材育成に取り組んでいます。外部変化やグローバルな事業展開に対応すべく、海外での現地採用に加え、国内における外国人の採用にも取り組んでいます。また2016年度から女性の活躍推進の目標を掲げるなど、ダイバーシティを促進しています。

信越化学は化学業界では比較的早く、2019年4月から従業員の定年年齢を60歳から65歳に引き上げ、60歳以降も昇給や昇格が可能な制度を導入しました。



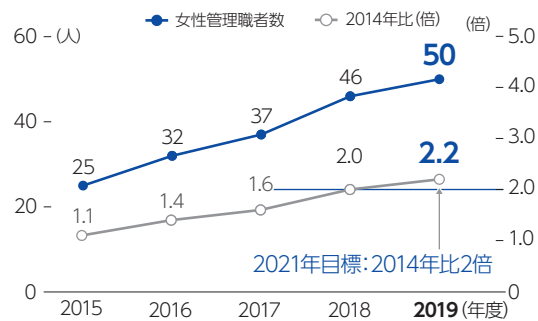
女性の活躍推進のための目標※

2016年度からの5年間で

1. 採用時の女性比率を事務系40%、技術系10%とする。
2. 係長を含む女性の管理職者の数を2014年度比で2倍にする。

※ 対象は、信越化学の従業員と出向者。

女性管理職者数の推移※



※ 対象は、信越化学の従業員と出向者。

▶重要課題:知的財産の尊重と保護

当社グループでは、保有する情報資産の機密性、完全性、可用性を維持するとともに、知的財産を核とした戦略的な企業経営を実践するため、情報資産の適切な管理と保護、知的財産の取得と活用に取り組んでいます。また、業務上有益な発明、改良、工夫、考案を通じて会社の利益に貢献した従業員を表彰する制度を設けています。

特許取得件数・特許保有件数 (対象範囲:主要グループ会社)

対象地域	特許取得件数			特許保有件数		
	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
日本	591	577	544	7,562	7,702	7,847
海外合計	1,591	1,202	1,348	12,007	12,671	13,414
アジア・オセアニア	724	543	594	5,314	5,707	6,137
北米	265	220	205	3,077	3,162	3,190
欧州	595	435	539	3,578	3,755	4,029
その他	7	4	10	38	47	58
合計	2,182	1,779	1,892	19,569	20,373	21,261

(件)

▶重要課題:社会貢献活動

当社グループおよび従業員は、各地域に根ざした社会貢献活動を積極的に進めています。

国連が定めた6月20日の「世界難民の日」に合わせ、毎年社内での募金活動を行い、国連UNHCR協会に寄贈しています。

2012年から2019年までの毎年3月には、東日本大震災被災地の特産品の販売協力を通じて、復興の支援を行ってきました。

また、海外の拠点では、地域の幼稚園児や小学生への安全教育、病院への寄付など、地域社会と積極的に関わり、支援活動を継続しています。

新型コロナウイルス感染症拡大に際しては、教育現場や医療・福祉の現場でお役立ていただこうと、当社で製造している次亜塩素酸ソーダや、工場で保有している防護服、防塵服などを事業所がある複数の自治体や医師会に寄贈しました。



地域の自治体や医師会に次亜塩素酸ソーダ、防護服などを寄贈

▶重要課題:適時、的確な情報開示、ステークホルダーとの対話

当社グループは、当社ホームページへの情報掲載、報道機関や証券取引所への発表、各種レポート、対話の機会などを通じて、ステークホルダーの皆さまのご理解の促進や適正な市場評価を目的に、公平で透明性の高い情報開示を行っています。

[主な対話の方法、機会]

株主・投資家の皆さま	● 株主総会 ● 機関投資家・アナリスト向け決算電話会議（年4回） ● 機関投資家・アナリスト向け工場見学会（年1回） ● 個別取材への対応（年間約280件） ● 証券会社主催の投資家向けスモールミーティング（年5回） ● 個人投資家説明会（年4回） ● ホームページ、アニュアルレポートなどによる情報発信
お客さま	● 営業担当部門による対応 ● ホームページ、展示会などを通じた情報発信
お取引先さま	● 調達担当部門による対応 ● サプライヤーホットライン
地域社会	● 地域の自治体などとの対話 ● 地域イベントへの参加
従業員	● 労働組合との対話、協議 ● 社内報、イントラネットなどを通じた情報発信

ガバナンスの強化

G Governance : ガバナンス

▶コーポレートガバナンスの考え方・取り組み

より詳しい情報は、当社ホームページのコーポレートガバナンス情報とコーポレート・ガバナンス報告書をご覧ください。

WEB https://www.shinetsu.co.jp/jp/csr/csr_governance.html

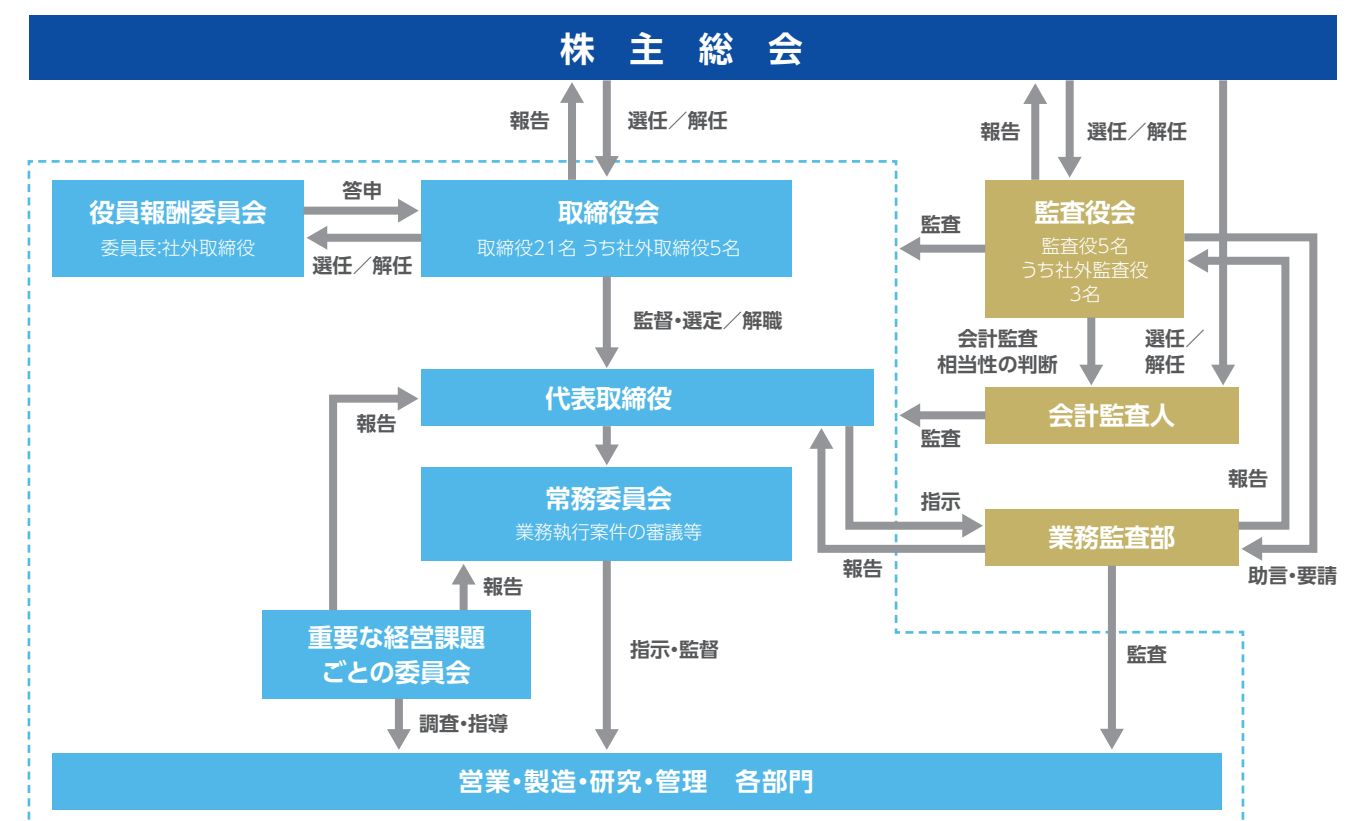
[基本的な考え方]

当社は「企業価値を継続して高め、株主の皆さまのご期待にお応えする」という経営の基本方針を実現するために、事業環境の変化に迅速に対応できる効率的な組織体制や諸制度を整備しています。また、経営における透明性の向上や監視機能の強化という観点から、株主や投資家の皆さまへの的確な情報開示に取り組むことを、当社のコーポレートガバナンスの基本として、経営上の最重要課題の一つに位置付けています。

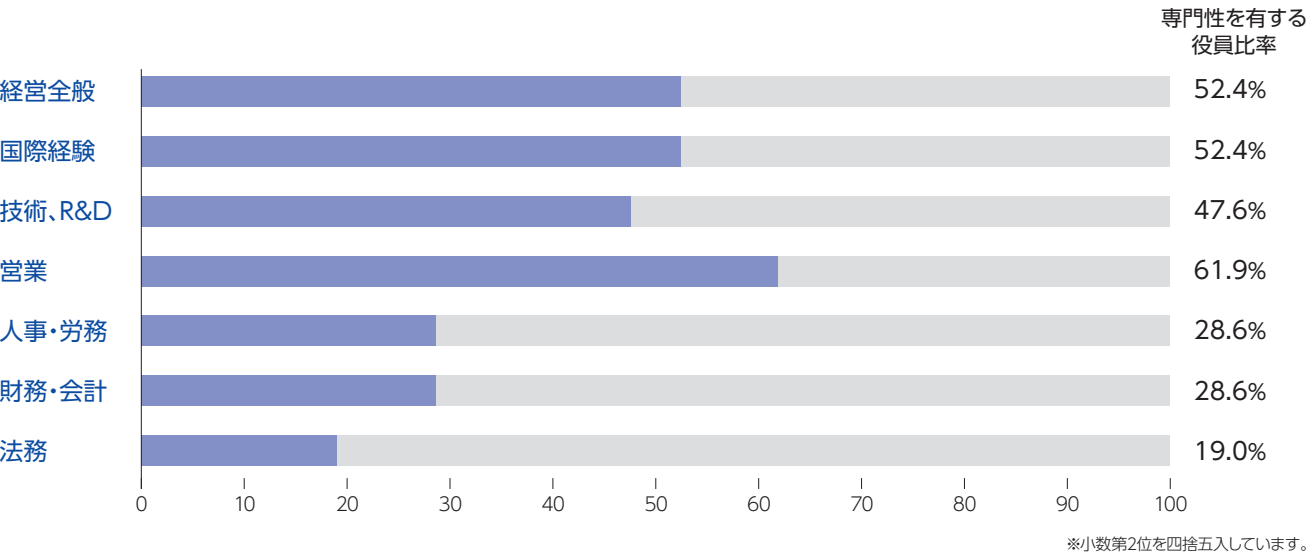
[企業統治の体制（2020年6月26日現在）]

当社では、独立性の高い社外監査役3名を含む合計5名の監査役により監査役会を構成しています。また、監査役による監査を支える人材および体制の充実に努め、監査役と内部監査部門の連携により、監査役による監査機能が十分に果たされる運用に取り組んでいます。さらに、独立性の高い社外取締役5名が監査役や内部監査部門との連携のもと、経営に対する十分な監督を行うことで、監査役の機能を有効に活用しながら経営に対する監督機能を強化する仕組みを構築しています。

このように、望ましいガバナンス体制の確立と株主および投資家の皆さまからのご信認の確保に向けて、監査役設置会社制度を採用しています。また、業務執行の主な審議および決定機関として、法定の取締役会のほかに常務委員会を設置し、それぞれ原則として月1回開催しています。さらに取締役会の諮問機関として社外取締役を委員長とする「役員報酬委員会」を設置し、役員報酬や取締役・監査役候補者の指名などにかかる透明性と妥当性を確保しています。



[取締役の専門性]



[役員報酬について]

当社は、2002年から取締役会の諮問機関として「役員報酬委員会」を設置しています。同委員会は社外取締役フランク・ピーター・ポポフ氏を委員長として、事業年度ごとの業績および経営全般への各取締役の貢献度を総合的に審査し、評価した結果を取締役に答申しています。

■報酬額またはその算定方法の決定方針

当社の取締役の報酬は、株主総会でご承認いただいた報酬枠の範囲内で、役員報酬委員会の審査、評価を踏まえて取締役会で決定されます。その内容は、役職、職責に応じた「固定報酬」、年次業績を勘案した「業績連動報酬」のほか、職務遂行および業績向上に対する意欲や士気を高めることを目的とした「ストックオプション」です。

当社の監査役の報酬は、株主総会でご承認いただいた報酬枠の範囲内で、監査役の協議により決定されます。その内容は、監査役としての職責に応じた「固定報酬」です。

経営に対する監督・けん制機能が期待される社外取締役および監査役には、「業績連動報酬」の支給および「ストックオプション」の付与はしていません。また、社外取締役および社外監査役には賞与の支給を行っていません。

■役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別総額、対象となる役員の員数（2020年3月期）

役員区分	報酬の種類(百万円)			対象となる役員の員数(人)	報酬等の種類(百万円)	対象となる役員の員数(人)
	固定報酬	業績連動報酬	計		ストックオプション	
取締役(社外取締役を除く)	1,106	590	1,696	18	310	17
監査役(社外監査役を除く)	36	—	36	3	—	—
社外役員	149	—	149	7	—	—

- (注) 1.上記には、2019年6月27日開催の第142回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名及び監査役1名を含んでいます。
2.当社は、2008年6月27日開催の第131回定時株主総会終結の時をもって役員退職慰労金制度を廃止しました。
3.ストックオプションは、会計基準に従い、当事業年度において費用計上した金額です。従って、金銭として支給された報酬等ではなく、また、金銭の支給が保証された報酬等でもありません。なお、使用人兼務取締役に対する使用人分は含まれていません。
4.取締役への支給額には、使用人兼務取締役に対する使用人給与相当額(賞与を含む)は含まれていません。なお、使用人兼務取締役に対する使用人給与として重要なものではありません。
5.取締役(社外取締役を除く)への「固定報酬」、「業績連動報酬」の計に「ストックオプション」を加えた報酬等の総額は2,006百万円です。

▶コンプライアンス

[内部統制システム]

■内部統制システムの整備の状況

当社は「取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他会社および子会社の業務の適正を確保するための体制」(会社法第362条第4項第6号等)を整備するための方針として、「内部統制基本方針」を定めています。同基本方針に従って、内部統制システムを構築、運用するとともに、常時見直しを行い、より適切かつ効率的な内部統制システムの整備に努めています。

■監査役監査および内部監査の状況

当社の監査役は、社内重要会議への出席のほか、重要書類の閲覧、国内外の工場の視察などを通じて業務執行に対する監査を行っています。さらに、会計監査人が行った監査に対する報告や説明を随時求め、適宜その調査に立ち会い、また情報交換や意見交換を年に数回行っています。監査役の業務を補助する者として、業務監査部および法務部の職員が監査役スタッフを兼任しています。

内部監査の組織体制としては、専任部署である業務監査部が業務活動の適法性および合理性の観点から各部門の業務監査を実施し、その結果については、経営者、社外取締役、監査役などに報告を行っています。

監査役は、定期的に業務監査部から内部監査の状況に関する報告、説明を受け、意見交換を行い、連携を図っています。常勤監査役は随時、業務監査部から活動状況および内部監査の結果等の報告を受け、必要に応じ助言および要請を行っています。監査役が会計監査人から監査計画や会計監査に関する報告、説明を受ける際には、業務監査部も出席し、三者の連携をより実効あるものとし、監査機能の強化に努めています。

▶納税コンプライアンス

当社グループが企業規範に掲げる「遵法に徹した公正な企業活動」の考え方にのっとり、企業活動を通じて得た利益について各国法令に基づき適正に申告、納税し、社会に貢献しています。なお2019年度の連結会社全体の納税額は約1,078億円です。

▶コーポレートガバナンス・コードへの対応

東京証券取引所の「コーポレートガバナンス・コード」への対応状況につきましては、11原則全てを実施しています。(詳細はコーポレート・ガバナンス報告書等をご覧ください。) [WEB https://www.shinetsu.co.jp/jp/csr/csr_governance.html](https://www.shinetsu.co.jp/jp/csr/csr_governance.html)

社外役員の活動状況（2020年3月期）



左から：福井 俊彦、小宮山 宏、フランク・ピーター・ポポフ、宮崎 毅



左から：小坂 義人、永野 紀吉、福井 琢

	重要な兼職の状況 (2020年3月31日現在)	活動状況	取締役会、 監査役会の出席率 (2020年3月期)
社外取締役 フランク・ピーター・ポポフ		グローバル企業としての長い歴史を有する米国旧ダウ・ケミカル社においてCEOを務めた同氏の経営経験に基づく具体的な意見と助言は、当社が世界で事業を拡大し企業価値を高めていく上で、極めて重要なものとなっています。	取締役会 100%
社外取締役 宮崎 毅	三菱倉庫株式会社 相談役	三菱倉庫株式会社での経営経験を生かした大所高所からの提言を行うとともに、独立した立場からの監督を十分に行いました。	取締役会 92%
社外取締役 福井 俊彦	一般財団法人 キャノングローバル戦略研究所 理事長 キッコーマン株式会社 社外取締役	元日本銀行総裁としての世界の金融および経済に関する卓越した知見と豊富な経験を生かした提言を行うとともに、独立した立場からの監督を十分に行いました。	取締役会 85%
社外取締役 小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長	東京大学総長等を歴任した同氏は、化学工学、地球環境、資源およびエネルギーなどの幅広い分野に係る卓越した知見と豊富な経験を生かした提言を行うとともに、独立した立場からの監督を十分に行いました。	取締役会 100%
社外監査役 福井 琢	弁護士 柏木総合法律事務所 マネージングパートナー 慶應義塾大学大学院 法務研究科教授 ヤマハ株式会社 社外取締役	監査役会において法律に関する専門的見地からの発言を行いました。また、当社の事業所及び子会社の往査を行うなど、監査機能を十分に発揮しました。	取締役会 100% 監査役会 100%
社外監査役 小坂 義人	公認会計士 税理士 スター・マイカ・ホールディングス 株式会社 社外取締役	監査役会において財務及び会計に関する専門的見地からの発言を行いました。また、当社の事業所及び子会社の往査を行うなど、監査機能を十分に発揮しました。	取締役会 100% 監査役会 100%
社外監査役 永野 紀吉	レック株式会社 社外取締役	監査役会において旧株式会社ジャスダック証券取引所での経営経験に基づく幅広い見地からの発言を行いました。また、当社の事業所及び子会社の往査を行うなど、監査機能を十分に発揮しました。	取締役会 100% 監査役会 100%

取締役および監査役（2020年6月26日現在）



代表取締役会長
金川 千尋

シンテックINC. 取締役会長、創業者



代表取締役副会長
秋谷 文男

半導体事業・技術関係担当、
信越半導体(株)代表取締役社長



代表取締役社長
斉藤 恭彦

シンテックINC. 取締役社長、
シンエツハンドウタイアメリカINC. 取締役社長

専務取締役	上野 進	新規製品関係担当、シリコン事業本部長
専務取締役	轟 正彦	半導体事業部業務部長、信越半導体(株)専務取締役
常務取締役	秋本 俊哉	秘書室・広報・法務・資材関係担当、デジタル推進室長
常務取締役	荒井 文男	有機合成事業部長、シンエツPVC B.V. 取締役社長、 SE タイローズGmbH & Co. KG 取締役社長
常務取締役	松井 幸博	特許関係担当、電子材料事業本部長
常務取締役	宮島 正紀	精密材料事業関係担当、塩ビ事業本部長
常務取締役	池上 健司	総務・人事・業務監査関係担当
取締役相談役	森 俊三	
取締役	フランク・ピーター・ポポフ※1	
取締役	宮崎 毅※1	三菱倉庫株式会社相談役
取締役	福井 俊彦※1	一般財団法人キャノングローバル戦略研究所理事長、キッコーマン株式会社 社外取締役
取締役	小宮山 宏※1	株式会社三菱総合研究所理事長
取締役	中村 邦晴※1	住友商事株式会社 取締役会長、日本電気株式会社 社外取締役
取締役	笠原 俊幸	社長室関係担当、経理部長
取締役	丸山 和政	新機能材料事業部長
取締役	塩原 利夫	研究開発関係担当、電子材料事業本部副本部長(有機材料関係担当)
取締役	高橋 義光	環境保安関係担当、企業開発部長
取締役	安岡 快	国際事業本部長
常勤監査役	岡本 博明	
常勤監査役	小根澤 英徳	
監査役	福井 琢※2	柏木総合法律事務所 マネージングパートナー、慶應義塾大学大学院法務研究科教授、 ヤマハ株式会社 社外取締役
監査役	小坂 義人※2	スター・マイカ・ホールディングス株式会社 社外取締役
監査役	永野 紀吉※2	レック株式会社 社外取締役

※1 会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

※2 会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

10年間の財務サマリー

信越化学工業株式会社および連結子会社 2011年から2020年3月期

より詳しい情報は、当社ホームページに掲載される有価証券報告書をご覧ください。

WEB https://www.shinetsu.co.jp/jp/ir/ir_data.html

百万円

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
会計年度										
売上高	¥1,058,257	¥1,047,731	¥1,025,409	¥1,165,819	¥1,255,543	¥1,279,807	¥1,237,405	¥1,441,432	¥1,594,036	¥1,543,525
売上原価	803,574	798,592	769,427	873,879	940,399	930,019	868,404	963,008	1,039,979	987,782
販売費及び一般管理費	105,460	99,505	98,938	118,130	129,814	141,262	130,383	141,601	150,352	149,702
営業利益	149,221	149,632	157,043	173,809	185,329	208,525	238,617	336,822	403,705	406,041
経常利益	160,338	165,237	170,207	180,605	198,025	220,005	242,133	340,308	415,311	418,242
親会社株主に帰属する当期純利益	100,119	100,643	105,714	113,617	128,606	148,840	175,912	266,235	309,125	314,027
設備投資額	119,884	87,165	86,841	83,155	109,903	134,753	145,647	176,283	240,618	265,018
研究開発費	37,321	35,725	37,671	43,546	47,165	53,165	49,020	51,768	56,436	48,536
減価償却費	93,732	82,868	80,961	91,445	96,918	100,466	93,087	112,016	137,570	131,172
期末										
総資産	¥1,784,166	¥1,809,841	¥1,920,903	¥2,198,912	¥2,452,306	¥2,510,085	¥2,655,636	¥2,903,137	¥3,038,717	¥3,230,485
運転資本（流動資産－流動負債）	638,493	694,803	832,878	981,667	1,100,999	1,170,679	1,232,607	1,324,495	1,358,614	1,446,724
資本金	119,419	119,419	119,419	119,419	119,419	119,419	119,419	119,419	119,419	119,419
純資産	1,469,429	1,494,573	1,623,176	1,822,135	2,012,711	2,080,465	2,190,082	2,413,025	2,532,556	2,723,141
有利子負債	14,574	15,732	13,929	15,638	14,328	13,470	14,642	15,814	14,920	30,383
1株当たり情報(円)										
1株当たり当期純利益	¥ 235.80	¥ 237.03	¥ 248.94	¥ 267.20	¥ 302.05	¥ 349.46	¥ 412.86	¥ 624.28	¥ 725.99	¥ 755.17
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	235.80	—	248.92	267.07	301.98	349.42	412.83	624.10	725.92	755.01
1株当たり配当金	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	110.00	120.00	140.00	200.00	220.00
配当性向(%)	42.4	42.2	40.2	37.4	33.1	31.5	29.1	22.4	27.5	29.1
1株当たり純資産額	3,360.39	3,422.93	3,709.19	4,165.28	4,602.80	4,761.48	5,002.16	5,511.98	5,915.47	6,377.93
主要指標										
売上高営業利益率(%)	14.1	14.3	15.3	14.9	14.8	16.3	19.3	23.4	25.3	26.3
売上高当期純利益率(%)	9.5	9.6	10.3	9.7	10.2	11.6	14.2	18.5	19.4	20.3
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	7.0	7.0	7.0	6.8	6.9	7.5	8.5	11.9	12.8	12.3
総資産経常利益率(ROA)(%)	9.0	9.2	9.1	8.8	8.5	8.9	9.4	12.2	14.0	13.3
自己資本比率(%)	80.0	80.3	82.0	80.6	79.9	80.8	80.3	81.0	81.1	82.1
従業員数(人)	16,302	16,167	17,712	17,892	18,276	18,407	19,206	20,155	21,735	22,783
発行済株式数(千株)	432,106	432,106	432,106	432,106	432,106	432,106	432,106	432,106	427,606	416,662

連結貸借対照表

信越化学工業株式会社および連結子会社 2019年および2020年3月31日現在

	百万円	
	2019	2020
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	¥ 826,680	¥ 836,448
受取手形及び売掛金	338,701	325,489
有価証券	215,444	251,377
商品及び製品	158,717	173,358
仕掛品	16,711	16,828
原材料及び貯蔵品	154,064	175,479
その他	47,527	52,723
貸倒引当金	(7,379)	(7,186)
流動資産合計	1,750,469	1,824,519
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	188,268	202,848
機械装置及び運搬具(純額)	445,974	440,595
土地	88,806	92,577
建設仮勘定	255,232	367,309
その他(純額)	9,678	16,584
有形固定資産合計	987,960	1,119,915
無形固定資産	8,740	10,099
投資その他の資産		
投資有価証券	141,685	126,060
退職給付に係る資産	3,841	3,788
繰延税金資産	59,154	63,735
その他	89,491	84,657
貸倒引当金	(2,624)	(2,291)
投資その他の資産合計	291,548	275,950
固定資産合計	1,288,248	1,405,965
資産合計	¥ 3,038,717	¥ 3,230,485

	百万円	
	2019	2020
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	¥ 141,027	¥ 136,442
短期借入金	7,008	8,295
未払金	75,128	75,094
未払費用	74,354	73,292
未払法人税等	45,739	44,377
賞与引当金	3,551	3,661
役員賞与引当金	694	728
その他	44,350	35,901
流動負債合計	391,854	377,794
固定負債		
長期借入金	7,624	15,124
繰延税金負債	62,669	59,378
退職給付に係る負債	30,473	36,243
その他	13,540	18,803
固定負債合計	114,306	129,549
負債合計	506,161	507,343
純資産の部		
株主資本		
資本金	119,419	119,419
資本剰余金	128,299	128,323
利益剰余金	2,283,760	2,413,769
自己株式	(94,702)	(7,123)
株主資本合計	2,436,777	2,654,388
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,955	10,296
繰延ヘッジ損益	(266)	(2,799)
為替換算調整勘定	5,143	(8,187)
退職給付に係る調整累計額	987	(1,387)
その他の包括利益累計額合計	28,820	(2,078)
新株予約権	1,143	1,904
非支配株主持分	65,814	68,927
純資産合計	2,532,556	2,723,141
負債純資産合計	¥ 3,038,717	¥ 3,230,485

連結損益計算書

信越化学工業株式会社および連結子会社 2019年および2020年3月期

百万円		
	2019	2020
売上高	¥ 1,594,036	¥ 1,543,525
売上原価	1,039,979	987,782
売上総利益	554,057	555,743
販売費及び一般管理費	150,352	149,702
営業利益	403,705	406,041
営業外収益(損失)		
受取利息	9,093	10,777
受取配当金	5,896	7,388
持分法による投資利益(損)	4,669	4,327
支払利息	(746)	(749)
為替差益(損)	(217)	(5,650)
その他(純額)	(7,088)	(3,892)
経常利益	415,311	418,242
特別利益		
投資有価証券売却益	—	7,774
税金等調整前当期純利益	415,311	426,017
法人税、住民税及び事業税	104,186	108,290
法人税等調整額	(2,861)	(564)
法人税等合計	101,325	107,726
当期純利益	313,986	318,290
非支配株主に帰属する当期純利益	(4,860)	(4,263)
親会社株主に帰属する当期純利益	¥ 309,125	¥ 314,027

1株当たり情報			円
1株当たり当期純利益	¥	725.99	¥ 755.17
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		725.92	755.01
配当金		200.00	220.00
期中平均株式数(千株)		425,797	415,838

連結包括利益計算書

信越化学工業株式会社および連結子会社 2019年および2020年3月期

百万円		
	2019	2020
当期純利益	¥ 313,986	¥ 318,290
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	(3,499)	(12,732)
繰延ヘッジ損益	(1,928)	(2,530)
為替換算調整勘定	(30,861)	(13,642)
退職給付に係る調整額	2,383	(2,371)
持分法適用会社に対する持分相当額	(134)	(125)
その他の包括利益合計	(34,040)	(31,401)
包括利益	¥ 279,945	¥ 286,889
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	¥ 276,632	¥ 283,128
非支配株主に係る包括利益	3,312	3,760

連結株主資本等変動計算書 信越化学工業株式会社および連結子会社

	千株	株主資本				百万円
	発行済株式数	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2018年4月1日現在残高	432,106	¥119,419	¥129,937	¥2,070,779	¥(30,207)	¥2,289,929
剰余金の配当				(74,655)		(74,655)
親会社株主に帰属する当期純利益				309,125		309,125
自己株式の取得					(89,475)	(89,475)
自己株式の処分			166		429	596
自己株式の消却	(4,500)		(24,551)		24,551	
利益剰余金から資本剰余金への振替			22,719	(22,719)		
その他			27	1,230		1,257
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
2019年3月31日現在残高	427,606	¥119,419	¥128,299	¥2,283,760	¥(94,702)	¥2,436,777

	百万円						
	その他の包括利益累計額						
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	新株予約権	非支配 株主持分
2018年4月1日現在残高	¥26,446	¥1,671	¥34,611	¥(1,416)	¥61,313	¥524	¥61,258
剰余金の配当							
親会社株主に帰属する当期純利益							
自己株式の取得							
自己株式の処分							
自己株式の消却							
利益剰余金から資本剰余金への振替							
その他							
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	(3,491)	(1,938)	(29,467)	2,403	(32,493)	619	4,556
2019年3月31日現在残高	¥22,955	¥(266)	¥5,143	¥987	¥28,820	¥1,143	¥65,814

	千株		百万円			
	株主資本					
	発行済株式数	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2019年4月1日現在残高	427,606	¥119,419	¥128,299	¥2,283,760	¥(94,702)	¥2,436,777
剰余金の配当				(87,410)		(87,410)
親会社株主に帰属する当期純利益				314,027		314,027
自己株式の取得					(10,566)	(10,566)
自己株式の処分			145		1,391	1,537
自己株式の消却	(10,943)		(96,753)		96,753	
利益剰余金から資本剰余金への振替			96,608	(96,608)		
その他			23			23
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
2020年3月31日現在残高	416,662	¥119,419	¥128,323	¥2,413,769	¥(7,123)	¥2,654,388

	百万円						
	その他の包括利益累計額						
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	新株予約権	非支配 株主持分
2019年4月1日現在残高	¥22,955	¥(266)	¥5,143	¥987	¥28,820	¥1,143	¥65,814
剰余金の配当							
親会社株主に帰属する当期純利益							
自己株式の取得							
自己株式の処分							
自己株式の消却							
利益剰余金から資本剰余金への振替							
その他							
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	(12,659)	(2,533)	(13,331)	(2,375)	(30,899)	760	3,112
2020年3月31日現在残高	¥10,296	¥(2,799)	¥(8,187)	¥(1,387)	¥(2,078)	¥1,904	¥68,927

連結キャッシュ・フロー計算書 信越化学工業株式会社および連結子会社 2019年および2020年3月期

	百万円	
	2019	2020
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	¥ 415,311	¥ 426,017
減価償却費	137,570	131,172
減損損失	2,232	912
退職給付に係る負債の増減額 (減少)	(126)	2,723
投資有価証券売却損益 (益)	(3)	(7,774)
投資有価証券評価損益 (益)	1,565	－
貸倒引当金の増減額 (減少)	(4,281)	(493)
受取利息及び受取配当金	(14,989)	(18,166)
支払利息	746	749
為替差損益 (益)	(2,060)	3,464
持分法による投資損益 (益)	(4,669)	(4,327)
売上債権の増減額 (増加)	(8,697)	11,215
たな卸資産の増減額 (増加)	(49,109)	(36,910)
長期前渡金の増減額 (増加)	3,838	3,579
仕入債務の増減額 (減少)	3,270	(3,892)
その他	25,803	(7,404)
小計	506,400	500,865
利息及び配当金の受取額	16,627	19,852
利息の支払額	(751)	(508)
法人税等の支払額	(121,589)	(107,824)
営業活動によるキャッシュ・フロー	400,687	412,384
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (増加)	55,116	(127,525)
有価証券の取得による支出	(83,830)	(117,000)
有価証券の償還による収入	82,660	115,936
有形固定資産の取得による支出	(226,768)	(268,365)
有形固定資産の売却による収入	238	65
無形固定資産の取得による支出	(1,334)	(1,063)
投資有価証券の取得による支出	(2,563)	(6,520)
投資有価証券の売却による収入	434	12,606
貸付けによる支出	(4)	(74)
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	－	(1,966)
貸付金の回収による収入	542	615
その他	(6,045)	(1,256)
投資活動によるキャッシュ・フロー	(181,553)	(394,547)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (減少)	(298)	1,265
長期借入れによる収入	51	8,384
長期借入金の返済による支出	(227)	(743)
自己株式の取得による支出	(89,475)	(10,566)
自己株式の売却による収入	573	1,398
配当金の支払額	(74,655)	(87,410)
非支配株主への配当金の支払額	(896)	(1,077)
その他	389	(5,306)
財務活動によるキャッシュ・フロー	(164,538)	(94,055)
現金及び現金同等物に係る換算差額	(7,917)	(7,001)
現金及び現金同等物の増減額 (減少)	46,678	(83,220)
現金及び現金同等物の期首残高	780,449	828,345
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (減少)	1,217	－
現金及び現金同等物の期末残高	¥ 828,345	¥ 745,125

信越化学グループ主要拠点

()内の数字は国際電話番号

北米				
米国 (1)	シンテックINC.	塩化ビニル樹脂の製造・販売	#3 Greenway Plaza, Suite 1150, Houston, TX 77046, U.S.A.	Tel. 713-965-0713
	シンエツ ハンドウタイ アメリカINC.	半導体シリコンウエハーの製造・販売	4111 NE 112th Ave., Vancouver, WA 98682-6776, U.S.A.	Tel. 360-883-7000
	シンエツ シリコンズ オブ アメリカ INC.	シリコン製品の製造・販売	1150 Damar Drive, Akron, OH 44305, U.S.A.	Tel. 330-630-9860
	K-Bin INC.	塩化ビニルコンパウンドの製造・販売	#3 Greenway Plaza, Suite 1150, Houston, TX 77046, U.S.A.	Tel. 713-965-0713
	シンエツ マイクロサイINC.	エレクトロニクス材料の販売	10028 South 51st St., Phoenix, AZ 85044, U.S.A.	Tel. 480-893-8898
	SEタイロース USA INC.	セルロース誘導体の製造・販売	26270 Highway 405 Plaquemine, LA 70764, U.S.A.	Tel. 225-309-0110
	シンエツ マグネティクスINC.	レア・アースおよび レア・アースマグネットの販売	2372 Qume Drive, Suite B, San Jose, CA 95131-1841, U.S.A.	Tel. 408-383-9240

南米				
ブラジル (55)	シンエツド ブラジル ヘブレーションソン デ プロットス キミコスLTD.	シリコン製品、 セルロース誘導体の販売サポート	Rua Coronel Oscar Porto, 736 – 8º Andar – Sala 84 Paraíso São Paulo – SP Brasil CEP: 04003-003	Tel.11-3939-0690(シリコン) 11-3939-0692(セルロース誘導体)

欧州				
オランダ (31)	シンエツ シリコンズ ヨーロッパ B.V.	シリコン製品の製造・販売	Bolderweg 32,1332 AV, Almere, The Netherlands	Tel. 36-549-3170
	シンエツ インターナショナル ヨーロッパB.V.	各種化学品、電子材料などの販売	World Trade Center Amsterdam, Strawinskylaan B-827 1077 XX, Amsterdam, The Netherlands	Tel. 20-662-1359
	シンエツPVC B.V.	塩化ビニルモノマーおよび 塩化ビニル樹脂の製造・販売	Building Noorderhaeve, Noorderweg 68 1221 AB, Hilversum, The Netherlands	Tel. 35-689-8010
ポルトガル (351)	シレスLDA.	塩化ビニル樹脂の製造・販売	Rua da Cires nr.8, 3860-160 Avanca, Estarreja, Portugal	Tel. 234-811-200
イギリス (44)	シンエツ ハンドウタイ ヨーロッパLTD.	半導体シリコンウエハーの製造・販売	Wilson Road, Toll Roundabout, Elilburn, Livingston, West Lothian EH54 7DA, U.K.	Tel. 1506-41-5555
ドイツ (49)	SEタイロースGmbH & Co. KG	セルロース誘導体の製造・販売	Rheingastr.190-196, 65203 Wiesbaden, Germany	Tel. 611-962-6462
	シンエツ マグネティクス ヨーロッパ GmbH	レア・アース製品およびマグネットの販売	Gerbermuehlstrasse 7, 60594 Frankfurt am Main, Germany	Tel. 69-8700-31611

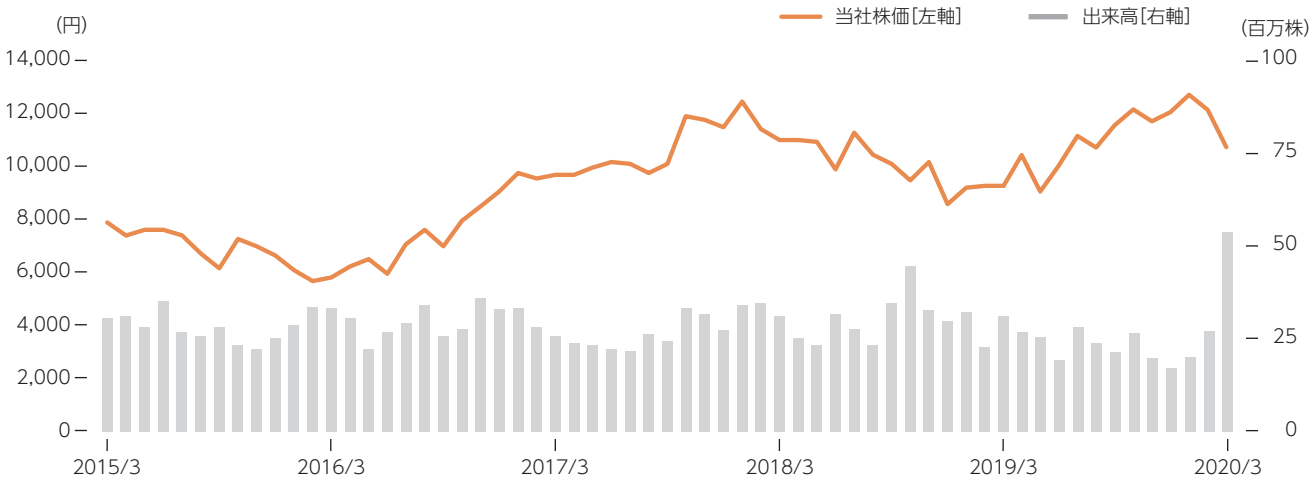
アジア・オセアニア				
マレーシア (60)	S.E.H.マレーシアSDN. BHD.	半導体シリコンウエハーの 製造・加工・販売	Lot No.2, Lorong Enggang 35, Ulu Klang Free Trade Zone, 54200 Selangor Darul Ehsan, Malaysia	Tel. 3-4259-6600
	シンエツ マレーシアSDN. BHD.	レア・アースマグネット およびVCMの製造・販売	Lot 50, Jalan Serendah 26/17, HICOM Industrial Estate, 40400 Shah Alam, Selangor Darul Ehsan, Malaysia	Tel. 3-5191-2233
	S.E.H.シャーラムSDN. BHD.	半導体シリコンウエハーの製造・加工	Lot No.8, Jalan Sementa 27/91, Seksyen 27, 40400 Shah Alam, Selangor Darul Ehsan, Malaysia	Tel. 3-5123-7000
	シンエツ エレクトロニクス マレーシアSDN. BHD.	エポキシ樹脂封止材料の製造・販売	Lot 50, Jalan Serendah 26/17, HICOM Industrial Estate, 40400 Shah Alam, Selangor Darul Ehsan, Malaysia	Tel. 3-5192-1081
	シンエツ エレクトロニクス マテリアルズ ペナン SDN. BHD.	シリコン/エポキシ材料に関する カスタマー技術サポート	Lot P22, Phase 4, Free Industrial Zone, 11900, Bayan Lepas, Penang, Malaysia	Tel. 4-6437008
オーストラリア (61)	シムコア オペレーションズPTY. LTD.	金属ケイ素の製造・販売	973, Marriott Road, Wellesley, WA 6233, Australia	Tel. 897-806744
ベトナム (84)	シンエツ エレクトロニクス マテリアルズ ベトナム CO., LTD.	LED用材料の製造・販売	Plot No. A-7, Thang Long Industrial ParkII Yen My district, Hung Yen province, Viet Nam	Tel. 221-3974-880/881
	シンエツ マグネティック マテリアルズ ベトナム CO., LTD.	レア・アースおよび レア・アースマグネットの製造	Lot CNS.2D, Petro-chemical Area, Dinh Vu industrial Zone, Dong Hai 2 Ward, Hai An District, Hai Phong, Viet Nam	Tel. 225-325-0518
フィリピン (63)	シンエツ マグネティクス フィリピンINC.	マグネット製品の製造・販売	125 East Main Avenue, Special Export Processing Zone,Laguna, Technopark Binan, Laguna 4034 The Philippines	Tel. 49-5413191
シンガポール (65)	シンエツ シンガポールPTE. LTD.	シリコン製品の販売	4 Shenton Way #10-03/06 SGX Centre II, Singapore 068807	Tel. 6743-7277
	シンエツ ハンドウタイ シンガポール PTE.LTD.	半導体シリコンウエハーの販売	8 Temasek Boulevard, #21-05 Suntec Tower Three, Singapore 038988	Tel. 2935160

タイ (66)	シンエツ シリコンズ タイランドLTD.	シリコン製品の製造・販売	7th Floor, Harindhorn Tower, 54 North Sathorn Road, Bangkok 10500, Thailand	Tel. 2-632-2941
	アジア シリコンズ モノマーLTD.	シリコンモノマーの製造・販売	1 Moo 2 Asia Industrial Estate, Tambol Banchang, Amphur Banchang, Rayong 21130, Thailand	Tel. 38-687-050
	シンエツ マグネティクス タイランド LTD.	VCMの製造	60/120,122,123 Moo19, Tambol Klongnueng, Amphur Klongluang, Pathumthani 12120, Thailand	Tel. 2-520-4293
日本 (81)	信濃電気製錬(株)	炭化ケイ素製品の製造・販売	〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-4-2(神田アーバンビル)	Tel. 03-5298-1601
	日信化学工業(株)	合成樹脂エマルジョン等の製造・販売	〒915-0802 福井県越前市北府2-17-33	Tel. 0778-22-5100
	信越ポリマー(株)	合成樹脂製品の製造・販売	〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-9(相鉄神田須田町ビル)	Tel. 03-5289-3712
	信越アステック(株)	化学製品等の販売および建築	〒101-0047 東京都千代田区内神田2-2-1(鎌倉河岸ビル)	Tel. 03-5298-3211
	長野電子工業(株)	半導体シリコンウエハー等の 製造・加工・販売	〒387-8555 長野県千曲市屋代1393	Tel. 026-261-3100
	信越半導体(株)	半導体シリコン・化合物半導体の 製造・販売	〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1(新大手町ビル)	Tel. 03-3243-1500
	鹿島電解(株)	電解事業(苛性ソーダ、塩素の製造販売)	〒314-0102 茨城県神栖市東和田3番地	Tel. 0299-96-2311
	鹿島塩ビモノマー(株)	塩化ビニルモノマーの製造・販売	〒314-0102 茨城県神栖市東和田2	Tel. 0299-96-3415
	直江津電子工業(株)	半導体シリコンウエハーの 製造・加工・販売	〒942-0193 新潟県上越市頸城区城野腰596-2	Tel. 025-530-2631
	直江津精密加工(株)	マスク基板・その他電子材料の 製造・加工・販売	〒949-3115 新潟県上越市大潟区波柿浜字五ヶ割935番地1	Tel. 025-534-4980
	信越石英(株)	石英ガラス製品の製造・販売	〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-22-2(新宿サンエービル)	Tel. 03-3348-1912
	信越フィルム(株)	コンデンサー用ほか 各種フィルム等の製造・販売	〒915-0802 福井県越前市北府2-1-5	Tel. 0778-23-8066
韓国 (82)	信越エンジニアリング(株)	化学プラント等の設計・建設、液晶、 PDP等のフラットパネルディスプレイ (FPD)製造装置の製造・販売	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-9(コンフォール安田ビル)	Tel. 03-3296-1080
	日本許ビ・ポパール(株)	酢酸ビニルモノマー、ポパール等の 製造・販売	〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町3-11-1	Tel. 072-245-1131
	丸喜化学工業(株)	合成樹脂シート・合成皮革の製造・加工・販売	〒270-1406 千葉県白井市中403番地14	Tel. 047-491-9566
	(株)タツノ化学	各種合成樹脂の製造・加工・販売	〒130-0002 東京都墨田区業平一丁目21番9号あさひ墨田ビル6階	Tel. 03-5637-2022
	韓国信越シリコン(株)	シリコン製品の製造・販売	GT Tower 15F,411, Seocho-daero,Seocho-gu, Seoul 06615, Korea	Tel. 2-590-2500
	韓国信越先端材料(株)	フォトレジスト、マスクブランクス等の販売	Keungil Tower 17F, 223, Teheran-ro, Gangnam-gu, Seoul 06142, Korea	Tel. 2-6964-7750
	浙江信越精細化工有限公司	シリコン製品の製造・販売	No.66, Lizheng Road, Jiashan Economic Development Zone, Zhejiang Sheng 314116, China	Tel. 573-8475-5071
	信越有机硅国際貿易(上海)有限公司	シリコン製品の販売	29F Junyao International Plaza, No.789, Zhao Jia Bang Road, Shanghai 200032, China	Tel. 21-6443-5550
	信越有机硅国際貿易(上海)有限公司 広州分公司	シリコン製品の販売	Room 2409-2410, Tower B, China Shine Plaza, 9 Linhexi-road, Tianhe, Guangzhou, Guangdong, China 510610	Tel. 20-3831-0212
	信越科技(蘇州)有限公司	レア・アースマグネットの販売	Block4, No.1 of Qiming Road, Suzhou Industrial Park, Jiangsu 215126, China	Tel. 512-6276-3270
	信越(江蘇)光棒有限公司	光ファイバー用プリフォームの製造・販売	No.8, Runhua Road, Ligang Zhen, Jiangyin, Jiangsu 214444, China	Tel. 510-8609-6060
	信越(江陰)光棒商貿有限公司	光ファイバープリフォームの販売、 およびプリフォーム用原材料等の購入販売	No.8, Runhua Road, Ligang Zhen, Jiangyin, Jiangsu 214444, China	Tel. 510-8609-6108
台湾 (886)	長飛信越(湖北)光棒有限公司	光ファイバー用プリフォームの製造・販売	Extra No.1 Changfei Avenue, Jiangnan Salt & Chemical Industrial Park, Qianjiang, Hubei, China	Tel. 728-670-9777
	台湾信越矽利光股份有限公司	シリコン製品の製造・販売	11F-D, No.167, Tun Hua N. Road, Taipei, 10549 Taiwan, R.O.C.	Tel. 2-2715-0055
	台湾信越半導体股份有限公司	半導体シリコンウエハーの製造・加工・販売	No.12, Industry East Road 9, Hsin-Chu Science Park, Hsin-Chu, 30075,Taiwan, R.O.C.	Tel. 3-577-1188
	信越光電股份有限公司	化合物半導体の製造・販売	3F, No.10 Dusing Rd 1, Hsin-Chu Science Park, Hsin-Chu, 30078,Taiwan, R.O.C.	Tel. 3-578-4566
	信越電子材料股份有限公司	フォトレジストの製造・販売	No.28, Kejia 6 Rd., Douliu City, Yunlin County 64057, Taiwan R.O.C.	Tel. 5-5511122

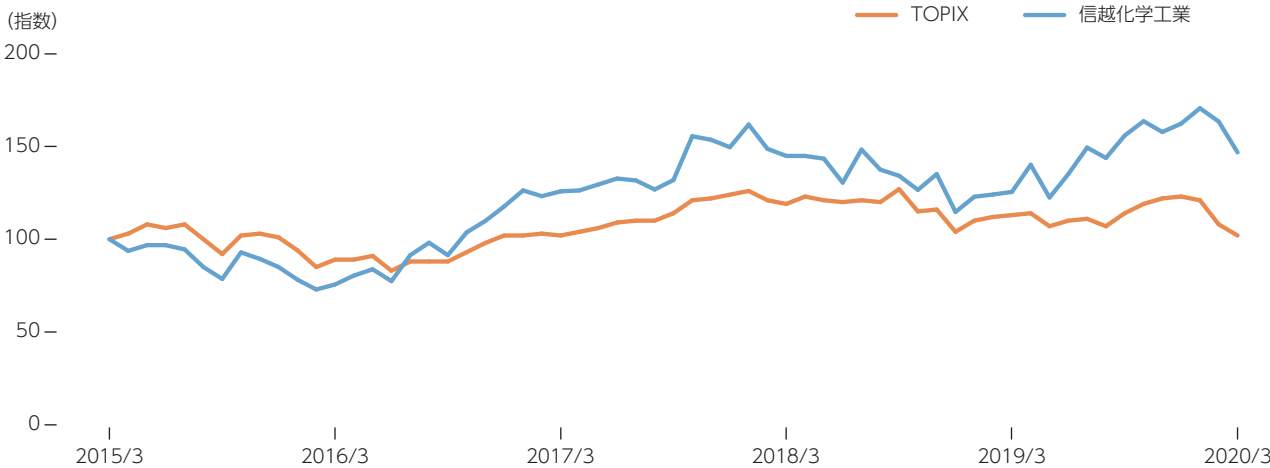
信越化学グループは、全146社(2020年3月31日現在)

投資家情報

過去5年間の株価・出来高推移



過去5年間の株主総利回り(TSR)



信越化学工業とTOPIXの値は、2015年3月末のデータを100とした指数です。

	信越化学工業	TOPIX
2015	100	100
2016	76	89
2017	126	102
2018	145	119
2019	126	113
2020	147	102

※上記グラフと表は2015年3月末に投資を行った場合の、2020年3月末時点の配当と株価を加味した収益率を示しています。信越化学工業の株価に配当を加えた投資パフォーマンスについて、2015年3月末の投資額を100として指数化しています。比較指標である東証株価指数 (TOPIX) も配当込みのデータを使用し、同様に指数化しています。

株式情報 (2020年3月31日現在)

商号	信越化学工業株式会社
本社	〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号
設立	1926年9月16日
資本金	119,419,688,785円
従業員数	22,783名(連結)
株式の状況	発行する株式の総数 1,720,000,000株 発行済株式総数* 416,662,793株 * 自己株式805,396株が含まれています。 単元株式数 100株 株主の総数 45,408名
上場証券取引所	東京・名古屋(証券コード4063)
決算日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
お問い合わせ	広報部 電話：03(3246)5091 FAX：03(3246)5096 メール：sec-pr@shinetsu.jp

(注) 2019年10月7日付で実施した自己株式の消却により、発行済株式の総数が前期末と比べて10,943,900株減少しています。

大株主 (千株未満は切捨表示)

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	52,814	12.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,960	6.2
日本生命保険相互会社	21,933	5.3
JP MORGAN CHASE BANK 385632	19,140	4.6
株式会社八十二銀行	11,790	2.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	11,772	2.8
明治安田生命保険相互会社	10,687	2.6
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	10,304	2.5
GOVERNMENT OF NORWAY	9,457	2.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	7,418	1.8

(注) 当社は、自己株式805,396株を保有していますが、上記の出資比率は自己株式を控除して計算しています。

ウェブサイトのご案内

信越化学について



<https://www.shinetsu.co.jp/> (日本語)
<https://www.shinetsu.co.jp/en/> (英語)
<https://www.shinetsu.co.jp/cn/> (中国語)

IR情報



<https://www.shinetsu.co.jp/jp/ir/> (日本語)
<https://www.shinetsu.co.jp/en/ir/> (英語)

サステナビリティ情報



<https://www.shinetsu.co.jp/jp/csr/> (日本語)
<https://www.shinetsu.co.jp/en/csr/> (英語)



Orchestrating expertise and
innovative mind on materials for better life

www.shinetsu.co.jp

